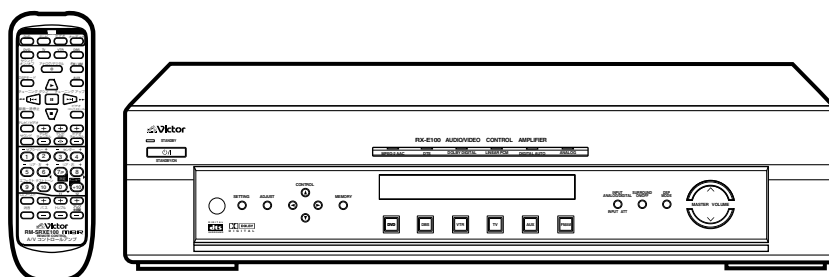
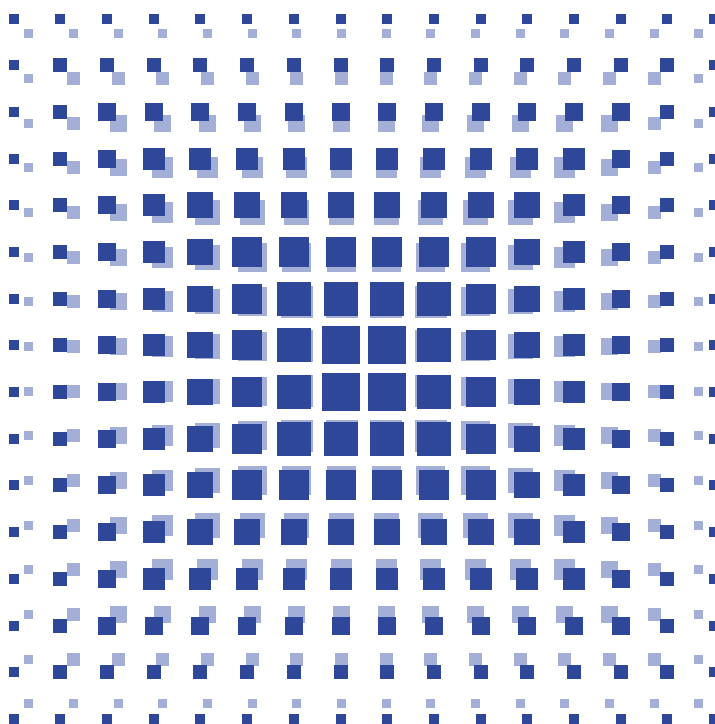
Victor
"HIS MASTER'S VOICE"

取扱説明書

AVコントロールアンプ
型名 RX-E100

Audio/Video Control Amplifier
RX-E100

DOLBY DIGITAL

DIGITAL dts SURROUND

お買い上げいただき、ありがとうございます。

⚠ご使用の前に

この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
特に3～6ページの「安全上のご注意」は、必ずお読みいただき、安全にお使いください。
お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。

LVT0650-006A

目次

主な特長

■ ドルビーデジタルデコーダー搭載
映画館や劇場に匹敵する臨場感を再現するドルビーデジタル5.1chサラウンドに対応。
センタースピーカー、サラウンドスピーカーやサブウーハーを接続することにより、迫真の立体音場の再生が可能です。DTSサラウンドにも対応しています。

■ MPEG-2 AACサラウンド対応
MPEG-2オーディオの標準方式の一つで、2000年12月から始まった、BSデジタル放送で採用。
低ビットレートでかつ高音質を確保でき、番組内容によりマルチチャンネルの設定が可能です。

■ デジタル処理によるドルビーサラウンド
高度なデジタル信号処理技術により、正確な音の定位とダイナミックな躍動感を、高音質を維持しながら忠実に再現します。

■ ホールの臨場感をさらに高めるDAPモード
著名なコンサートホールやライブハウスなどの音場を、デジタル処理により創り出して再現。
同じアーティストの演奏でも、違った雰囲気で楽しむことができます。

■ マルチブランドリモコン
対応しているメーカーのコードを設定することで、ビクター製品以外のDVDプレーヤー、ビデオデッキ、テレビの操作ができます。

音のエチケット

■ ステレオを聞くときのエチケット
ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さな音でも周囲によく通るものです。窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。
このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

安全上のご注意 ーはじめにお読みくださいー

絵表示について

この取扱説明書と製品には、いろいろな絵表示が記載されています。
これらは、製品を安全に正しくお使いいただき、人への危害や財産への損害を未然に防止するための表示です。絵表示の意味をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

● この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容を示しています。

⚠注意

● この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、「傷害を負ったり物的損害が想定される」内容を示しています。

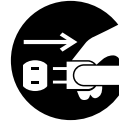
●絵表示の説明

注意をうながす記号

一般的注意　感電

行為を禁止する記号

禁止　分解禁止　水ぬれ禁止

行為を指示する記号

一般的指示　電源プラグを抜く

⚠警告

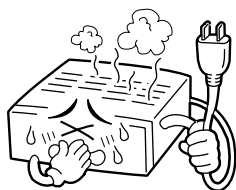
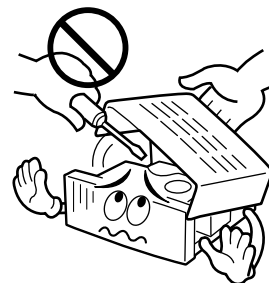
万一、次のような異常が発生したときはすぐ使用をやめる。

- 煙が出ている、へんなにおいがするとき

電源プラグを抜く

- 内部に水や異物が入ってしまったとき
- 落としたり、破損したとき
- 電源コードが傷んだとき（芯線の露出や断線など）

電源プラグを抜く

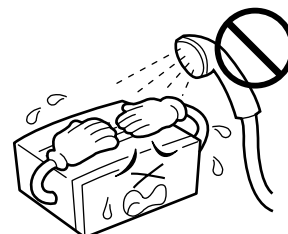
すぐに電源を「切」にし、必ず電源プラグをコンセントから抜く。異常が発生したまま使用していると、火災や感電の原因となります。煙が出なくなるのを確認してから販売店に修理を依頼してください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

分解や改造をしない。カバーを外さない。

火災や感電の原因となります。
内部の点検や修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

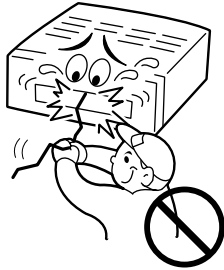
分解禁止

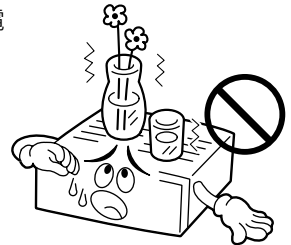
風呂場やシャワー室では使用しない。

本機の中に水が入ると、火災や感電の原因となります。

水場での使用禁止

⚠警告

本機の中に物を入れない。

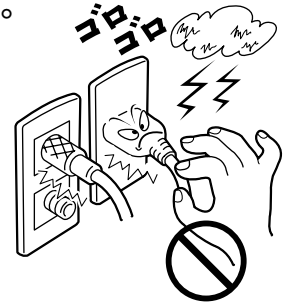
通風孔などから、金属物や燃えやすいものが入ると、火災や感電の原因となります。特に小さいお子様のいるご家庭では注意してください。

本機の上に水などの入った容器を置かない。

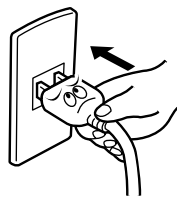
花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など水の入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に水が入った場合は、火災や感電の原因となります。

電源コードを傷つけない。

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。
特に、次のことに注意してください。

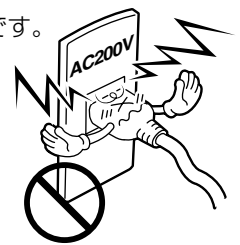
- 電源コードを加工しない
- 電源コードを無理に曲げない
- 電源コードをねじらない
- 電源コードを引っ張らない
- 電源コードを熱器具に近づけない
- 電源コードの上に家具などの重い物をのせない

雷が鳴り出したら、アンテナ線や電源プラグに触れない。

感電の原因となります。

電源プラグは根元まで確実に差し込む。

差し込みが不完全ですと、発熱したりほこりが付着して火災や感電の原因となります。また、たこ足配線も、コードが熱を持ち危険ですのでしないでください。

表示された電源電圧（交流100ボルト）で使用する。

表示された電源電圧以外では、火災・感電の原因となります。
本機を使用できるのは日本国内のみです。

This set is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

電源プラグは定期的に清掃する。

電源プラグとコンセントの間に、ゴミやほこりがたまって湿気を吸うと、絶縁低下を起こして、火災の原因となります。定期的に電源プラグをコンセントから抜き、ゴミやほこりを乾いた布で取り除いてください。

本機の包装に使用しているポリ袋は、小さなお子様の手の届くところに置かない。

頭からかぶると窒息の原因となります。

⚠注意

電源プラグは、コードの部分を持って抜かない。

電源コードを引っ張ると、コードに傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。
電源プラグを持って抜いてください。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

通風孔をふさいだり、風通しの悪い場所で使用しない。

本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。特に次のことに注意してください。

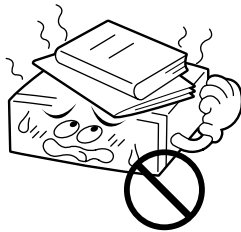
- あお向けや横倒し、逆さまにしない
- 本箱、押し入れなど風通しの悪い狭い所に押し込まない
- テーブルクロスを掛けない
- 本や雑誌などをのせない
- じゅうたんや布団の上に置かない
- 設置する場合は、壁から10cm以上離してください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から10cm以上、背面から10cm以上のすきまをあけてください。

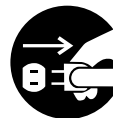
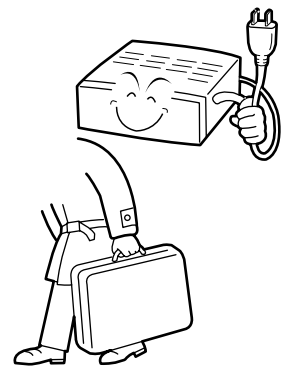
設置場所に注意する。

次のような所に設置すると、火災や感電の原因となることがあります。

- 湿気やほこりの多い所
- 直射日光の当たる所や、熱器具の近くなど高温になる所
- 窓ぎわなど水滴の発生しやすい所

本機の上に重い物を置かない。

テレビなどの重い物や本機からはみ出るような大きな物を置くと、バランスがくずれて倒れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。

長期間使用しないときは、電源プラグを抜く。

電源が「切」でも本機には、わずかな電流が流れています。安全および節電のため、電源プラグをコンセントから抜いてください。

電源プラグを抜く

⚠注意

お手入れをするときは、電源プラグを抜く。

電源が「切」でも本機には、わずかな電流が流れています。電源プラグがコンセントに接続されていると、感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜く

移動するときは、接続コード類や電源プラグを抜く。

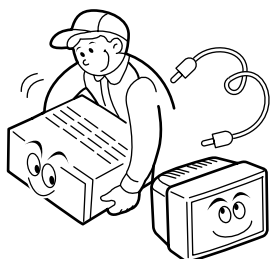
接続したまま移動すると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜く

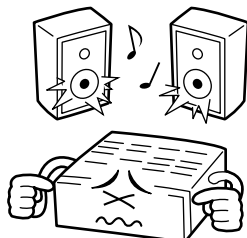
はじめから音量を上げすぎない。

突然大きな音が出て、スピーカーを破損したり、聴力障害の原因となることがあります。
電源を切る前に音量(ボリューム)を下げておき、電源が入ってから徐々に上げてください。

3年に一度は内部の清掃を販売店に依頼する。

内部にほこりがたまったまま使用すると、火災の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行なうと、より効果的です。

電池の取り扱いに注意する。

電池の取り扱いを誤ると、電池が破裂したり、液もれして、火災･けがや周囲を汚す原因となることがあります。次のことに注意してください。

- 指定以外の電池を使用しない
- 電池のプラス(+)とマイナス(−)を間違えない

- 電池のプラス(+)とマイナス(−)をショートさせない
- 電池を加熱しない
- 分解しない
- 火や水の中に入れない
- 新しい電池と一度使用した電池を混ぜて使用しない
- 種類の違う電池と混ぜて使用しない
- 乾電池は充電しない
- 長期間使わないときは、電池を取り出しておく

もし、電池が液もれをしてしまったときは、電池ケースについた液をよく拭きとってください。万一、もれた液体が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

設置についてのご注意

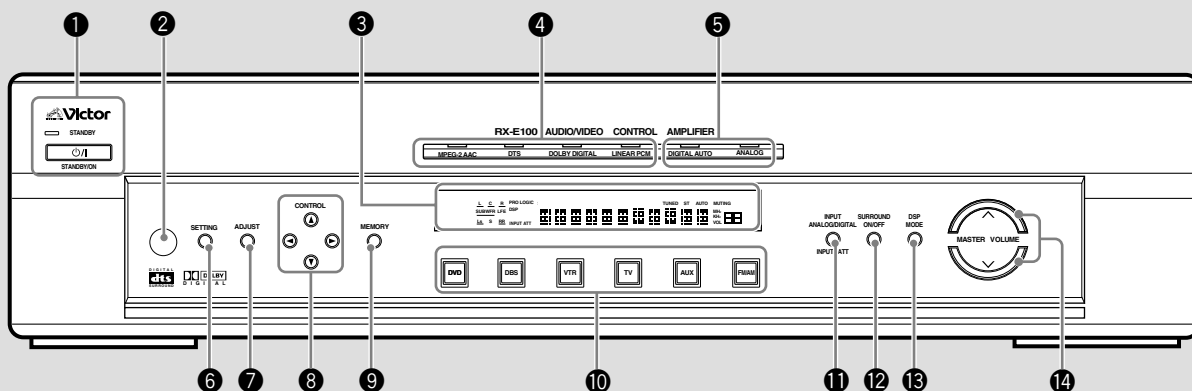
故障などを防止するため次の場所は避けてください。
- 不安定な所
- 振動の激しい所
- 湿気やほこりの多い所

寒い所から急に暖かい部屋へ移動したときは、約1〜2時間待ってから電源を入れてください。

使用中の本体の温度上昇について

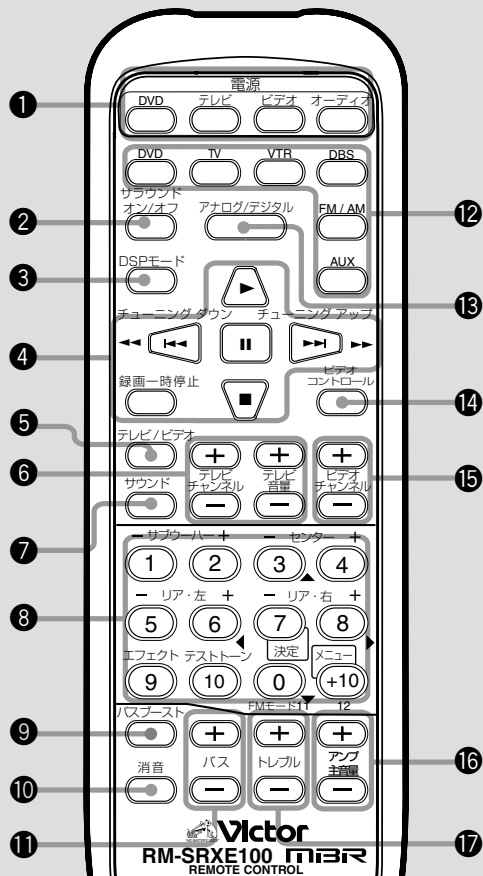
使用状態によっては、本体の温度が上昇することがありますが、これは故障ではありません。
特に、大音量で使い続けると本体キャビネットが熱くなります。このようなときは、火傷などの原因となりますので本体には触れないようにしてください。

各部の名前

本体前面

本体前面

詳しくは、( )内のページをご覧ください。

❶ ⏻/I（電源）ボタンとSTANDBYランプ（14）
❷ リモコン受光部
❸ 表示窓
❹ デジタル音声入力表示ランプ（16、17）
MPEG-2 AAC、DTS、DOLBY DIGITAL、LINEAR PCM
❺ 音声入力表示ランプ（16）
DIGITAL AUTO、ANALOG
❻ SETTINGボタン（16、18～22）
❼ ADJUSTボタン（23～25、35、36、38）
❽ CONTROLボタン（16～27、35～38）
▲／▼／►／◄
❾ MEMORYボタン（26、27）
❿ ソース機器選択ボタン（14、17、26、27）
DVD、DBS、VTR、TV、AUX、FM/AM
⓫ INPUT ANALOG/DIGITALボタン（16）
INPUT ATTボタン（23）
⓬ SURROUND ON/OFFボタン（30、35）
⓭ DSP MODEボタン（30、36、38）
⓮ MASTER VOLUME ∧/∨ ボタン（14）

リモコン (RM-SRXE100)

リモコン

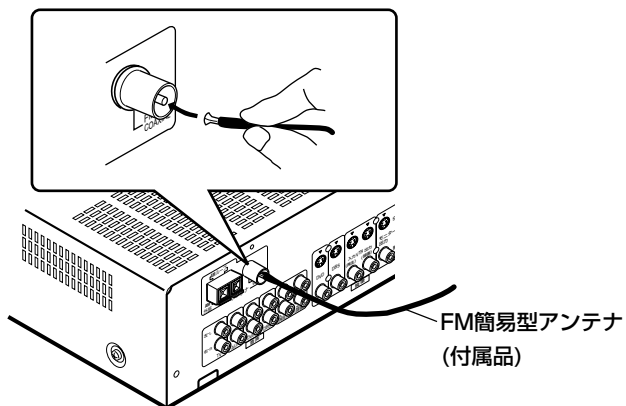
詳しくは、( )内のページをご覧ください。

❶ 電源ボタン（14、39、41～43）
DVD、テレビ、ビデオ、オーディオ
❷ サラウンド オン/オフボタン（30～32、39）
❸ DSPモードボタン（30、32、34、39）
❹ オーディオ/ビデオ機器操作ボタン（40、42、43）
❺ テレビ/ビデオボタン（40、41）
❻ テレビ操作ボタン（40、41）
テレビ音量＋/－、テレビチャンネル＋/－
❼ サウンドボタン（25、31～34、39）
❽ 数字ボタン
記憶した放送局を選ぶ（27）
音量·音質調節（25）
DSPを使う（31～34）
オーディオ/ビデオ機器操作（40～43）
❾ バスブースト（低音強調）ボタン（24、39）
❿ 消音ボタン（15、39）
⓫ バス（低音）＋/－ボタン（25、39）
⓬ ソース機器選択ボタン（14、26、27、39～43）
DVD、TV、VTR、DBS、FM/AM、AUX
⓭ アナログ/デジタルボタン（16、39）
⓮ ビデオコントロールボタン（40、43）
⓯ ビデオチャンネル＋/－ボタン（40、43）
⓰ アンプ主音量＋/－ボタン（14、39）
⓱ トレブル（高音）＋/－ボタン（25、39）

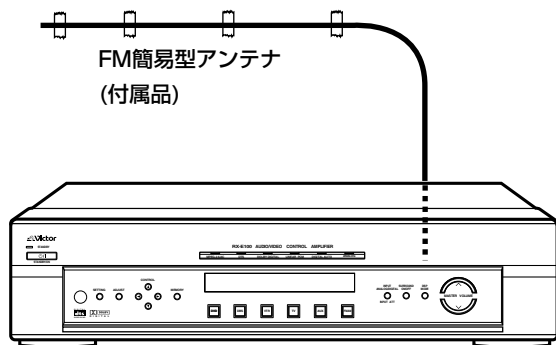
アンテナを接続する

FM/AM放送を聞くために、アンテナを接続します。

FM簡易型アンテナ(付属品)を接続する

・付属のFM簡易型アンテナを本機に接続します。

FM簡易型アンテナ
(付属品)

FM簡易型アンテナ(付属品)を張る

・FM放送を受信しながらFM簡易型アンテナ(付属品)を最も受信状態の良い位置と向きに、まっすぐ伸ばしてテープなどで水平に固定します。

FM簡易型アンテナ
(付属品)

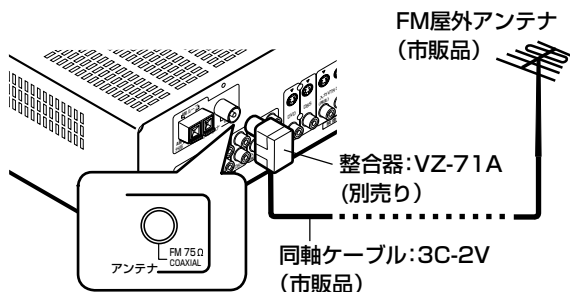
付属のアンテナでうまく受信できないときは・・・FM屋外アンテナを接続する

FM簡易型アンテナではFM放送がうまく受信できないときは、FM屋外アンテナを使います。

FM屋外アンテナ
(市販品)

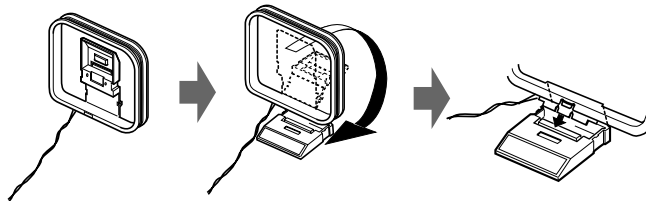
整合器:VZ-71A
(別売り)

同軸ケーブル:3C-2V
(市販品)

アンテナ FM 75Ω COAXIAL

マンションなどの共同住宅にお住まいの方は

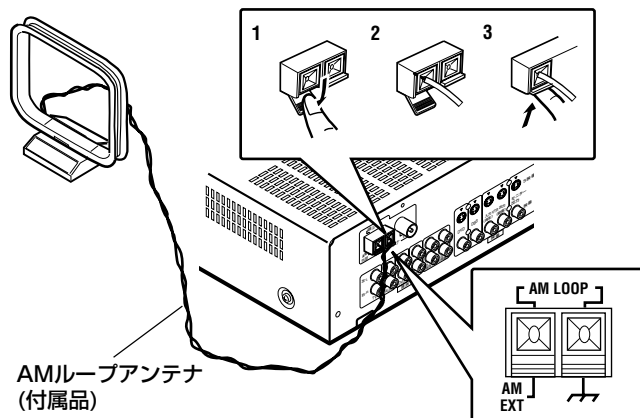
テレビ(VHF/UHF)用共聴アンテナ端子に本機を接続してください。すでにテレビなどが接続されているときは、市販の分配器などをお使いください(ただし、電波が弱いとうまく受信できないことがあります)。

AMループアンテナ(付属品)を接続する

・まずAMループアンテナを組立てます。

・次に組立てたAMループアンテナを本機に接続します。

1 2 3

AM LOOP

AM EXT

AMループアンテナ
(付属品)

ご注意

• AMループアンテナのコード先端にビニールがついているときは、芯線をよじりながらビニールを抜き取ってください。

AMループアンテナ(付属品)の向きを決める

・AM放送を受信しながらAMループアンテナの向きを変え、最も受信状態の良い場所に置きます。
このとき、AMループアンテナは電源コード、接続コード、本機からできるだけ離して置くと雑音などが入りにくくなります。

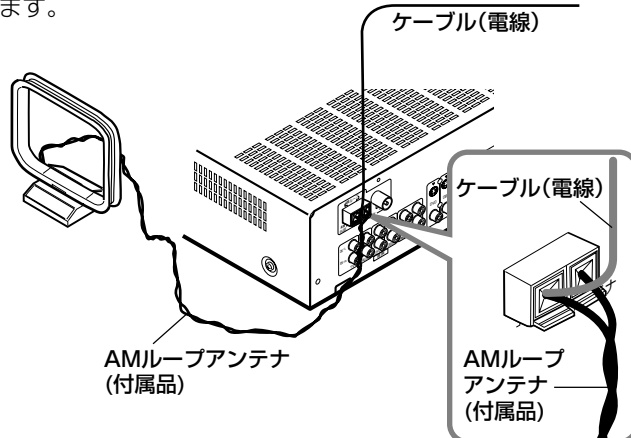
付属のAMループアンテナでうまく受信できないときは・・・3m～5mのケーブル(電線)を接続する

AMループアンテナを接続したまま、AM EXT端子に3m～5mのケーブル(電線:市販品)を接続し、窓際や屋外のなるべく高い位置に水平に張ると効果的です。
⏚(アース)端子にアース線を接続すると、より雑音が軽減されます。

ケーブル(電線)

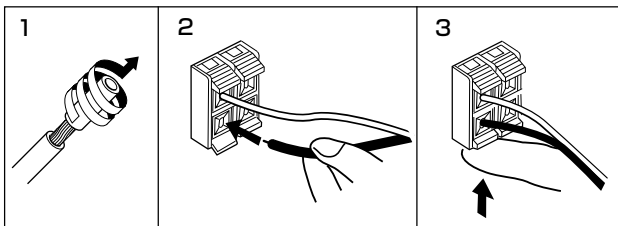
AMループアンテナ
(付属品)

ケーブル(電線)

AMループアンテナ
(付属品)

スピーカーを接続する

スピーカーコードを接続する

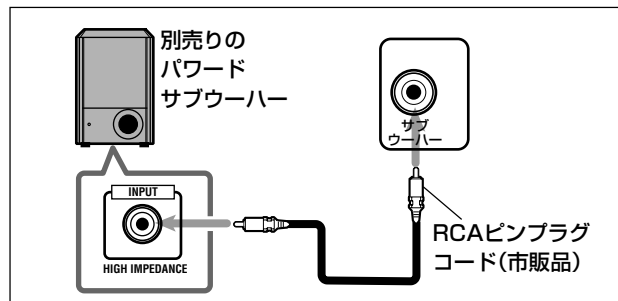
スピーカー側の⊕、⊖端子と本機側の⊕、⊖端子を正しく接続してください。スピーカーコードの極性（⊕/⊖）を間違えて接続すると、ステレオ感や音質がそこなわれます。

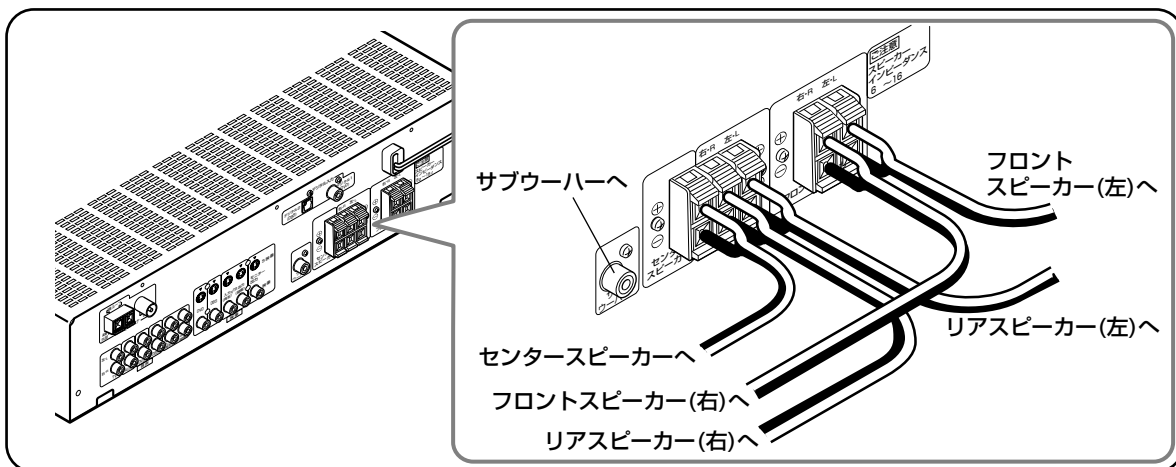
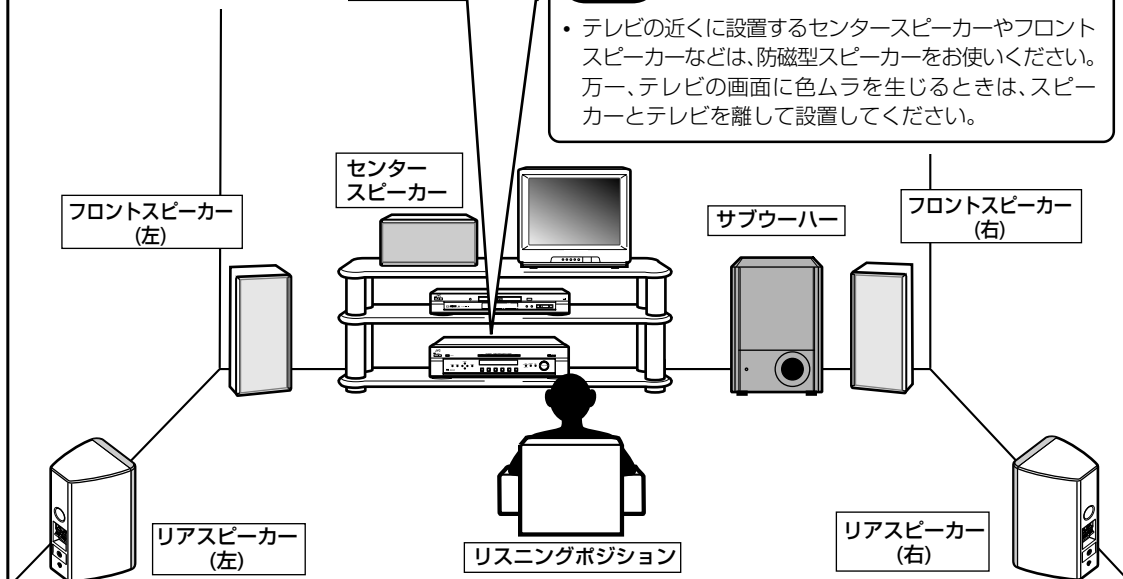
1 2 3

1. スピーカーコードの先端にビニールがついているときは、芯線をよじりながらビニールを抜き取る。
2. スピーカー端子を開き、その中にスピーカーコードの芯線を差し込む。
3. スピーカー端子を閉じる。

ご注意

- スピーカーは、フロント／リア／センターともにインピーダンスが6Ω〜16Ωのものを使用してください。

サブウーハーの接続

サブウーハーを接続すると、より迫力のある重低音がお楽しみいただけます。
またドルビーデジタル、DTSサラウンドやMPEG-2 AACサラウンドの再生では、オリジナルのLFE信号がサブウーハーで再生されます。

RCAピンプラグコード（市販品）でサブウーハーの入力端子と本機のサブウーハー端子を接続します。
・ サブウーハーの取扱説明書もご覧ください。

人の聴感は、高音に比べて低音での音の方向性（指向性）にあまり敏感ではありません。このためサブウーハーは、お好きな場所に置くことができます。通常はリスニングポジションより前方に置きます。

スピーカーの配置例

ご注意

- テレビの近くに設置するセンタースピーカーやフロントスピーカーなどは、防磁型スピーカーをお使いください。万一、テレビの画面に色ムラを生じるときは、スピーカーとテレビを離して設置してください。

スピーカーの接続ができたらスピーカーサイズの設定を行ってください。（18〜19ページ）

AV機器を接続する

本機には接続コードを付属しておりません。接続する機器に付属している接続コードか市販品をお使いください。
本機の接続には次のような接続コードが必要になります。

A 光デジタルケーブル
:XN-110SAなど

B 同軸デジタルケーブル
:CN-D110Eなど

C RCAピンプラグコード
赤 → 右(R)
白 → 左(L)
:CN-510Eなど
白
赤

D S映像ケーブル
:VC-S110Eなど

E 映像ケーブル
:VX-110Eなど
黄

映像(コンポジット)とS映像について

本機には、映像入力/出力端子として、映像(コンポジット)端子とS映像端子の2種類の端子があります。
映像(コンポジット)端子から入力された信号は、映像(コンポジット)端子から出力され、S映像端子から入力された信号は、S映像端子から出力されます。
映像(コンポジット)端子とS映像端子の両方を接続する必要はありませんが、次のことにご注意ください。

- 録画用の機器と再生用の機器が同じ種類の端子に接続されていないと、映像を録画することはできません。
- テレビと再生用ビデオ機器が同じ種類の端子に接続されていないと、映像をテレビで見ることはできません。

テレビを接続する

ご注意
- 接続を始める前にすべての機器の電源を「切」にしておいてください。

接続する機器の取扱説明書もご覧ください。

本体後面

左・L
右・R
TV
AUX
DVD
DBS
入力(再生)VTR出力(録音)
音声
DVD
DBS
入力VTR出力
(再生)
(録画)
S映像
モニター出力
映像
デジタル入力
デジタル2 (DBS)
デジタル1 (DVD)

デジタル2入力端子に接続するときは、保護プラグをはずしてください。

テレビの映像入力へ **E**
D
テレビのS映像入力へ
A
B
C
テレビのアナログ音声出力より
テレビのデジタル音声出力より
テレビ
:信号の流れ

<お知らせ>

- お手持ちのテレビにデジタル音声出力端子があるときは、本機のデジタル入力端子(デジタル1または2)と接続できます。
お買い上げ時、デジタル入力端子はそれぞれ以下の機器を接続するように設定されています。
  - デジタル1(同軸) : DVDプレーヤー
  - デジタル2(光) : DBS*(BSデジタルチューナーまたはデジタルCSチューナー)

  他の機器を接続したときは、設定を変更してください。(「デジタル入力端子に接続した機器名を設定する」16ページ)

- **音声入力方式を選ぶ**
再生する前に、音声入力方式を選んでください。(「アナログまたはデジタル入力を選ぶ」16ページ)

* DBSとは:Direct(ダイレク) Broadcasting(ブロードキャスティング) Satellite(サテライト)の略字でBS/CSチューナーなどの直接衛星放送を指します。

ビデオデッキを接続する

ご注意

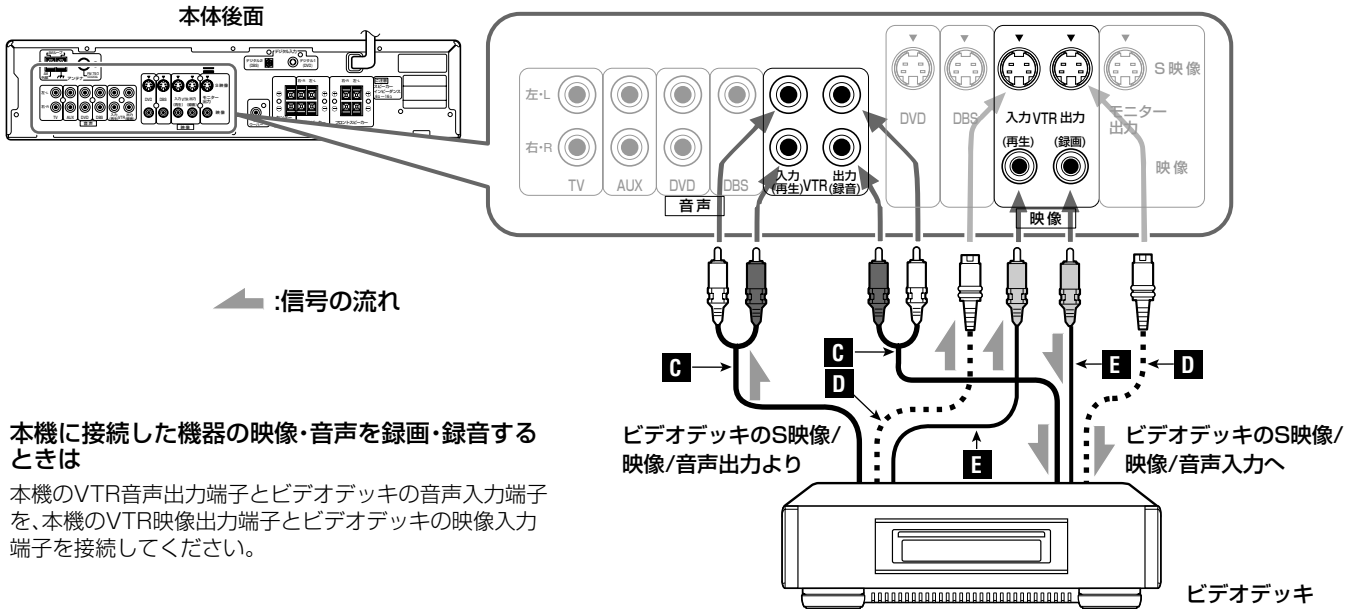
- 接続を始める前にすべての機器の電源を「切」にしておいてください。

接続する機器の取扱説明書もご覧ください。

本体後面

:信号の流れ

ビデオデッキのS映像/映像/音声出力より

ビデオデッキのS映像/映像/音声入力へ

ビデオデッキ

本機に接続した機器の映像・音声を録画・録音するときは

本機のVTR音声出力端子とビデオデッキの音声入力端子を、本機のVTR映像出力端子とビデオデッキの映像入力端子を接続してください。

BSデジタルチューナーやデジタルCSチューナーを接続する

ご注意

- 接続を始める前にすべての機器の電源を「切」にしておいてください。

接続する機器の取扱説明書もご覧ください。

本体後面

デジタル2入力端子に接続するときは、保護プラグをはずしてください。

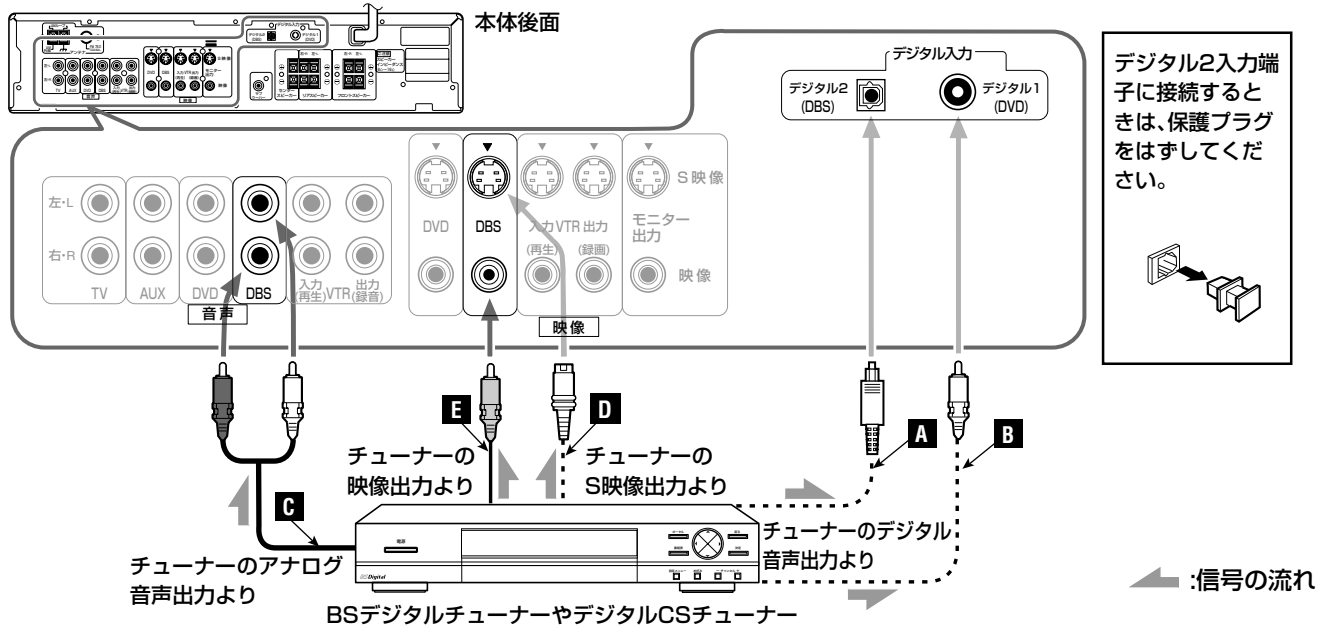
チューナーの映像出力より

チューナーのS映像出力より

チューナーのデジタル音声出力より

チューナーのアナログ音声出力より

BSデジタルチューナーやデジタルCSチューナー

:信号の流れ

<お知らせ>

- お手持ちのBSデジタルチューナーやデジタルCSチューナーにデジタル音声出力端子があるときは、本機のデジタル入力端子(デジタル1または2)と接続してください。MPEG-2 AACサラウンド(28ページ)をお楽しみいただけます。
  お買い上げ時、デジタル入力端子はそれぞれ以下の機器を接続するように設定されています。
  - デジタル1(同軸):DVDプレーヤー
  - デジタル2(光):DBS(BSデジタルチューナーまたはデジタルCSチューナー)

  他の機器を接続したときは、設定を変更してください。(「デジタル入力端子に接続した機器名を設定する」16ページ)

- **音声入力方式を選ぶ**
  再生する前に、音声入力方式を選んでください。(「アナログまたはデジタル入力を選ぶ」16ページ)

DVDプレーヤーを接続する

ご注意
- 接続を始める前にすべての機器の電源を「切」にしておいてください。

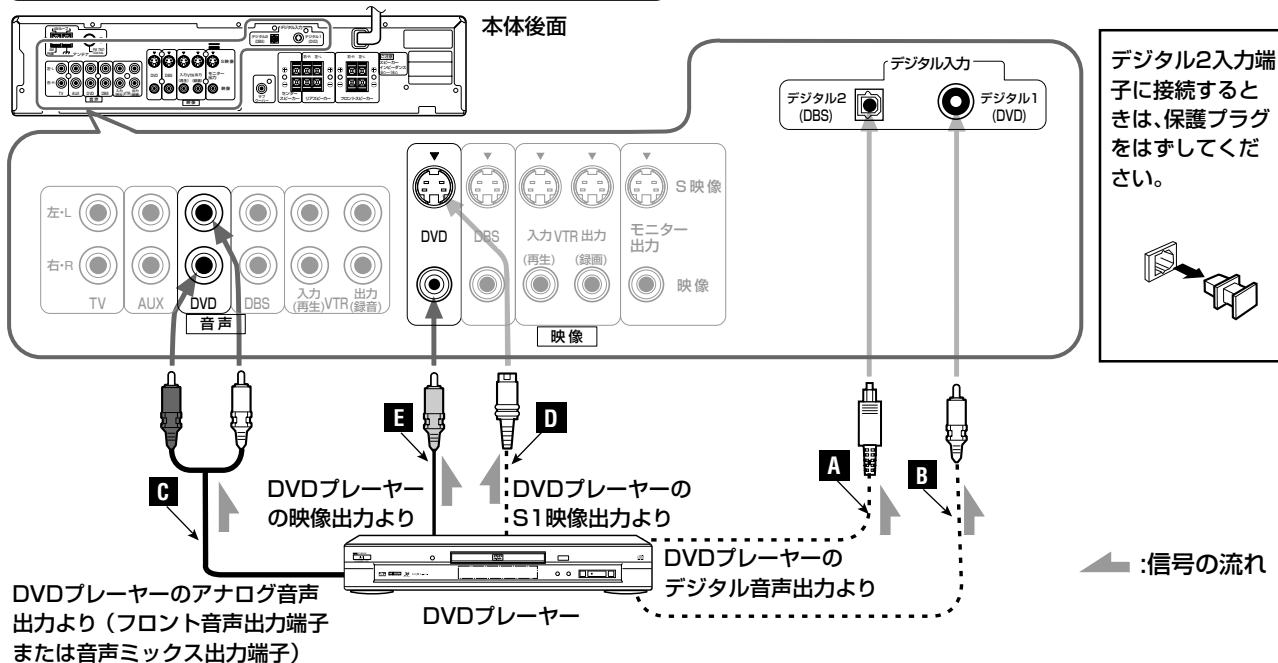
接続する機器の取扱説明書もご覧ください。

本体後面

デジタル入力
デジタル2 (DBS)
デジタル1 (DVD)

デジタル2入力端子に接続するときは、保護プラグをはずしてください。

左・L
右・R
TV AUX DVD DBS 入力(再生) VTR 出力(録音)
音声
S映像
DVD DBS 入力VTR出力 (再生) (録画) モニター出力
映像

E D A B C

DVDプレーヤーの映像出力より
DVDプレーヤーのS1映像出力より
DVDプレーヤーのデジタル音声出力より
DVDプレーヤーのアナログ音声出力より(フロント音声出力端子または音声ミックス出力端子)
DVDプレーヤー

:信号の流れ

<お知らせ>
- お手持ちのDVDプレーヤーにデジタル音声出力端子があるときは、本機のデジタル入力端子(デジタル1または2)と接続してください。ドルビーデジタルやDTSサラウンド(28ページ)をお楽しみいただけます。
  お買い上げ時、デジタル入力端子はそれぞれ以下の機器を接続するように設定されています。
  - デジタル1(同軸):DVDプレーヤー
  - デジタル2(光) :DBS(BSデジタルチューナーまたはデジタルCSチューナー)

  他の機器を接続したときは、設定を変更してください。(「デジタル入力端子に接続した機器名を設定する」16ページ)

- **音声入力方式を選ぶ**
  再生する前に、音声入力方式を選んでください。(「アナログまたはデジタル入力を選ぶ」16ページ)

オーディオ機器を接続する

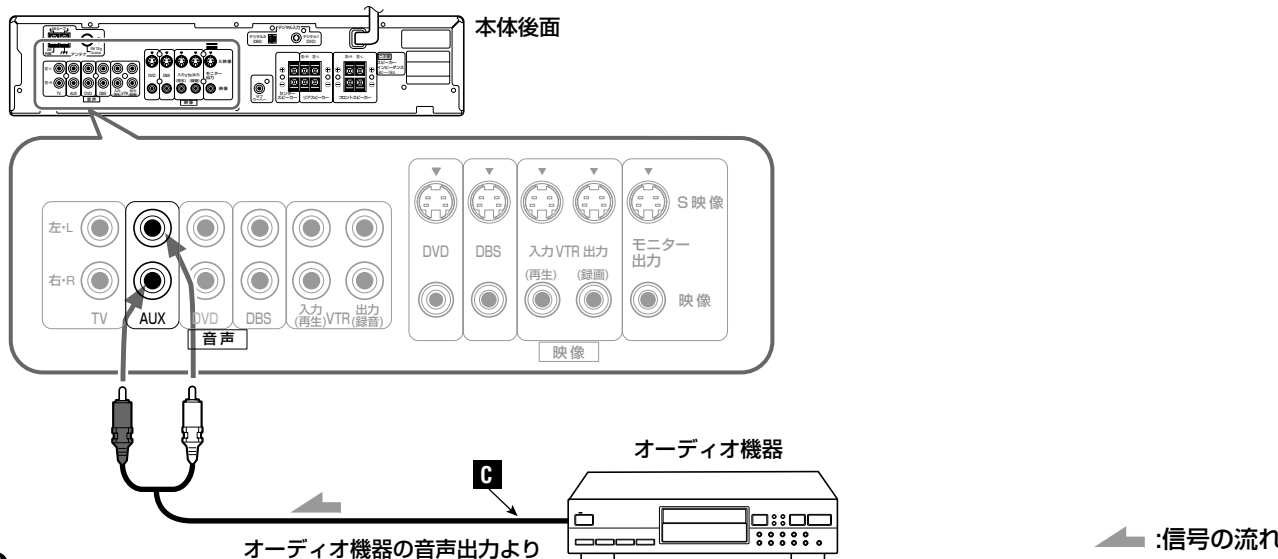
ご注意
- 接続を始める前にすべての機器の電源を「切」にしておいてください。

接続する機器の取扱説明書もご覧ください。

本体後面

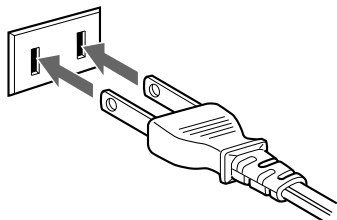
左・L
右・R
TV AUX DVD DBS 入力(再生) VTR 出力(録音)
音声
S映像
DVD DBS 入力VTR出力 (再生) (録画) モニター出力
映像

C
オーディオ機器
オーディオ機器の音声出力より

:信号の流れ

電源コードを接続する

電源コードを接続する

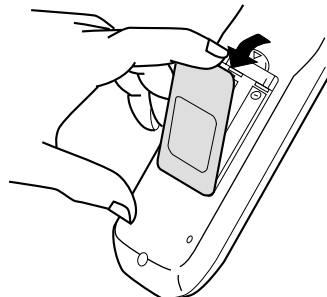
接続がすべて終わったら、電源プラグを家庭用コンセントに接続してください。
電源コードを接続すると、STANDBYランプが赤く点灯します。

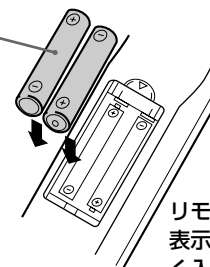
家庭用コンセント
AC100V、50Hz/60Hz

<お知らせ>
記憶させた放送局や操作の設定、サラウンド効果などの設定は、次のような場合に消去されることがあります。このようなときは、もう一度設定し直してください。
・電源コードをコンセントから抜いたとき
・停電が起こったとき

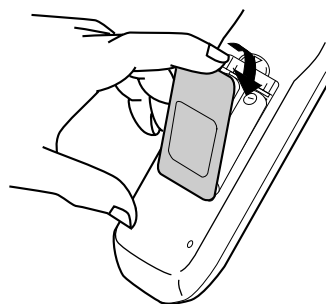
ご注意
- 電源コードはテレビやビデオデッキ、アンテナ線などから離してください。雑音が発生したり、映像が乱れたりすることがあります。
- 電源プラグをコンセントから抜くときは、電源コードではなく、必ずプラグを持って抜いてください。
- 濡れた手で電源プラグに触らないでください。

リモコンに乾電池を入れる

付属の単3形乾電池をリモコンに入れます。

1. 裏ぶたをはずす

2. 乾電池を2本入れる

単3形乾電池
（付属の電池は動作確認用です。早めに新しい電池と交換してください）

リモコン内部の極性表示に合わせて正しく入れてください。

3. 裏ぶたをしめる

リモコンを使って操作するときは、リモコンを本体のリモコン受光部に向けてください。

操作範囲が狭くなってきたり、本体に近づけないと操作できなくなってきたときは、乾電池を交換してください。
交換の際は、2本とも同じ種類の新しい乾電池（アルカリ電池など）と交換してください。

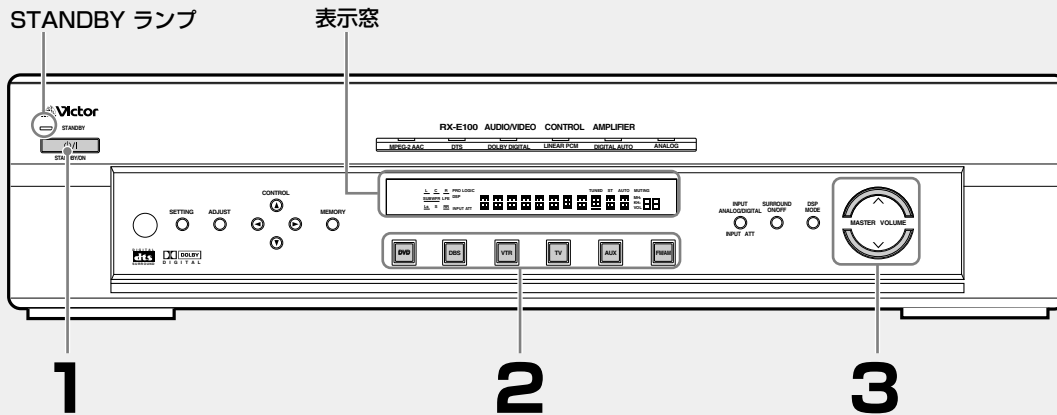
ご注意
- 長い間使用しないときは、乾電池を取り出しておいてください。
- 乾電池のプラス（⊕）とマイナス（⊖）の向きは、機器の表示通り正しく入れてください。

基本の操作

この取扱説明書では、主に本体前面のボタンを使った操作を説明しています。
本体のボタンと同じ（または似ている）名前のリモコンのボタンでも同様に操作できます。
リモコンに限りできる操作、本体のボタンに限りできる操作もありますので、各操作の説明をご覧ください。

・リモコンに限りできる操作について、詳しくは「リモコン操作」をご覧ください。（39ページ）

STANDBY ランプ　表示窓

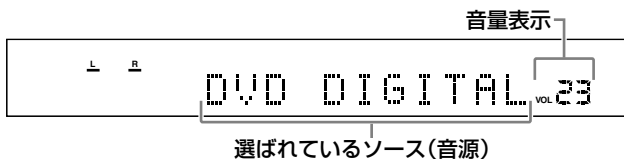
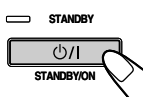
1　2　3

1 ⏻/I ボタンを押して電源を入れる

リモコンのオーディオ電源ボタンを押しても電源が入ります。
STANDBYランプが消え、本体の表示窓に現在選ばれているソース（音源）またはラジオの周波数が表示されます。

STANDBY
⏻/I
STANDBY/ON

音量表示

L R DVD DIGITAL VOL 23

選ばれているソース（音源）

2 ソース機器選択ボタンを押してソース（音源）を選ぶ

DVD　DBS　VTR　TV　AUX　FM/AM

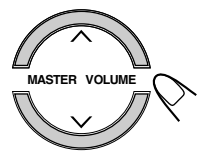
DVD　：DVDプレーヤーを選ぶ
DBS　：BSデジタルチューナーまたはデジタルCSチューナーを選ぶ
VTR　：ビデオデッキを選ぶ
TV　：テレビを選ぶ
AUX　：オーディオ機器を選ぶ
FM/AM：FM放送またはAM放送を選ぶ

ご注意

- 本体後面のデジタル音声入力端子に、デジタル機器をつないでいるときは、あらかじめデジタル入力端子に接続した機器名の設定と、デジタルまたはアナログ入力の選択を行ってください。詳しくは、「基本の設定」（16ページ）をご覧ください。

3 音量を調節する

MASTER VOLUME ∧ ボタン（またはリモコンのアンプ主音量＋ボタン）を押し続けると音量が上がります。
MASTER VOLUME∨ ボタン（またはリモコンのアンプ主音量－ボタン）を押し続けると音量が下がります。

MASTER VOLUME

・音量は「0」～「70」の範囲で調節できます。
・ボタンを押すごとに、「0」～「14」では2段階ずつ、「14」～「70」では1段階ずつ音量が変わります。

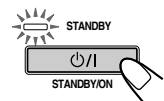
ご注意

次のような操作をする前には、必ず音量（ボリューム）を最小にしてください。音量を上げたまま操作すると、突然大きな音が出て聴力障害などの原因となったり、スピーカーを破損したりすることがあります。

- 再生する機器やラジオの放送局を選ぶとき
- 本機や接続した機器の電源を「入/切」するとき

電源を切るには（スタンバイモード）

⏻/I ボタンまたはリモコンのオーディオ電源ボタンを押す。
STANDBYランプが点灯します。

STANDBY
⏻/I
STANDBY/ON

スタンバイモードのときでもわずかな電力（2W）を消費しています。
長期間使用しないときは、電源コードを抜いておいてください。

一時的に音声を消すには (リモコン)

リモコンの消音ボタンを押す。
接続されているすべてのスピーカーから音声が出なくなります。

消音

MUTING

表示窓に「MUTING」と表示され、音量表示が消えます。

音声を出すには
もう一度消音ボタンを押す。
表示窓に「MUTING OFF」と表示され、再び音声が聞こえるようになります。
MASTER VOLUME ∧/∨ボタンまたはリモコンのアンプ主音量+/−ボタンを押しても「MUTING」が解除できます。

設定の記憶について

本機は次の操作を行ったときに、ソース(音源)ごとの現在の設定を記憶します。次に再び同じソース(音源)を選んだときは、記憶された設定に切り換わります。

- **電源を切ったとき**
- **ソース(音源)を切り換えたとき**
- **アナログ/デジタル入力を切り換えたとき**(16ページ)

ソース(音源)ごとの設定で記憶される内容は次の通りです。

- **音声入力(アナログ/デジタル)の設定(16ページ)**
- **アナログ入力信号のレベルの設定(23ページ)**
- **フロントスピーカーのバランスの設定(23ページ)**
- **バスブースト(低音強調)の設定(24ページ)**
- **音質(バス/トレブル)の設定(25ページ)**
- **サブウーハーの出力レベルの設定(25ページ)**
- **サラウンドの設定(31、35ページ)**
- **ビクター・シアターサラウンドの設定(32、36ページ)**
- **DAPの設定(34、38ページ)**

・FM放送またはAM放送を選んでいるときは、FMとAM別々に設定できます。

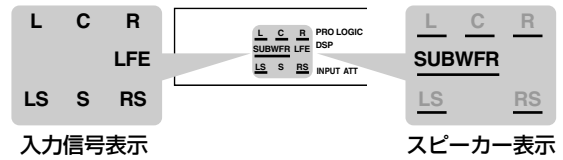
録画・録音について

VTR端子に接続したビデオデッキに、映像・音声を録画・録音することができます。
録音のみをするときにはVTR出力(録音)端子にMDレコーダーやCDレコーダーなどを接続してください。
また、録画・録音中に音質調節(サラウンドやDAPの効果も含みます)や音量調節をしても、録画・録音中の音声は変わりません。

入力信号表示とスピーカー表示

入力信号表示とスピーカー表示

L C R / LFE / LS S RS
PRO LOGIC DSP INPUT ATT
L C R / SUBWFR / LS RS

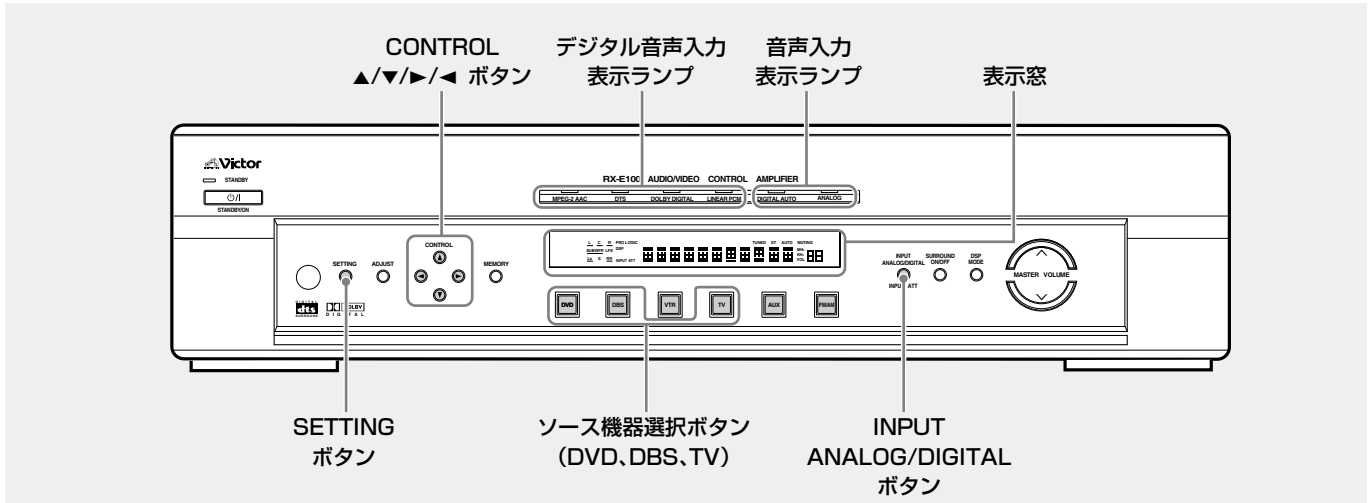
入力信号表示　　スピーカー表示

入力信号表示

L　:左フロントスピーカー音声信号が入力されているときに点灯(デジタル入力選択時)
　常に点灯(アナログ入力選択時)
R　:右フロントスピーカー音声信号が入力されているときに点灯(デジタル入力選択時)
　常に点灯(アナログ入力選択時)
C　:センタースピーカー音声信号が入力されているときに点灯
LS　:左リアスピーカー音声信号が入力されているときに点灯
RS　:右リアスピーカー音声信号が入力されているときに点灯
S　:リアスピーカー用のモノラル音声信号が入力されているときに点灯
LFE:LFE音声信号が入力されているときに点灯

スピーカー表示

・サブウーハーの設定を「YES」にしているときは(18ページ)、SUBWFR表示が点灯します。
・サブウーハー以外のスピーカーは、選択中のサラウンドやDAPに有効なスピーカー表示のみが点灯します。

基本の設定

CONTROL ▲/▼/►/◄ ボタン
デジタル音声入力表示ランプ
音声入力表示ランプ
表示窓
SETTINGボタン
ソース機器選択ボタン（DVD、DBS、TV）
INPUT ANALOG/DIGITALボタン

デジタル入力端子に接続した機器名を設定する（本体）

デジタル入力端子（デジタル1または2）に接続した機器名を設定します。
正しく設定しないと、デジタル音声を聞くことができませんのでご注意ください。

途中で設定操作ができなくなったときは、手順1からやり直してください。

1 SETTINGボタンを押す

SETTING

CONTROLボタンが働くようになります。

2 CONTROL ▲（または ▼）ボタンをくり返し押して「DGT 1DVD 2DBS」*を表示させる

CONTROL

DGT 1DVD2DBS VOL 23

*「1DVD 2DBS」はお買い上げ時の設定です。既に、設定を変更されているときは、その組み合わせが表示されます。

3 CONTROL ►（または ◄）ボタンをくり返し押してデジタル入力端子に接続した機器の組み合わせを選ぶ

押すごとに、次のように表示が変わります。

CONTROL

DGT 1DVD2TV VOL 23

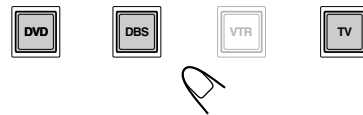
DGT 1 DVD 2 DBS ↔ DGT 1 DVD 2 TV ↔
DGT 1 DBS 2 DVD ↔ DGT 1 DBS 2 TV ↔
DGT 1 TV 2 DVD ↔ DGT 1 TV 2 DBS ↔
(始めに戻ります)

<お知らせ>
お買い上げ時、デジタル入力端子に接続する機器は以下のように設定されています。
・デジタル1（同軸）端子：DVDプレーヤー
・デジタル2（光）端子　：DBS(BSデジタルチューナーまたはデジタルCSチューナー)

アナログまたはデジタル入力を選ぶ

デジタル機器をデジタル入力端子に接続したとき（10～12ページ）は、デジタル機器の音声を聞くためにデジタル音声入力を選びます。お買い上げ時には、アナログ音声が聞けるように設定されています。

1 ソース機器選択ボタン（DVD、DBS、TV）を押してソース（音源）を選ぶ

DVD　DBS　VTR　TV

2 INPUT ANALOG/DIGITAL（またはリモコンのアナログ/デジタル）ボタンを押す

押すごとに、次のように表示が変わります。

INPUT ANALOG/DIGITAL

DGTL AUTO

DGTL AUTO ↔ ANALOG

DGTL AUTO(DIGITAL AUTO)
デジタル音声入力を選びます（DIGITAL AUTOランプがオレンジ色に点灯します）。
入力されたデジタル音声信号の種類が自動的に識別されます。

ANALOG
アナログ音声入力を選びます（ANALOGランプがオレンジ色に点灯します）。
お買い上げ時は「ANALOG」に設定されています。

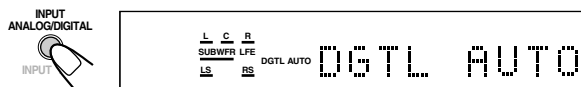
デジタルオート(DIGITAL AUTO)で正しく信号が判別できないときや、以下の症状が起きるときは次の手順でデジタル音声入力固定モードを選びます。

ー 再生を始めても最初の数秒間音声が聞こえない
ー サーチや頭出しをするとノイズが聞こえる

1 ソース機器選択ボタン(DVD、DBS、TV)を押してソース(音源)を選ぶ

DVD DBS VTR TV

2 INPUT ANALOG/DIGITALボタン(またはリモコンのアナログ/デジタルボタン)を押して「DGTL AUTO」を表示させる

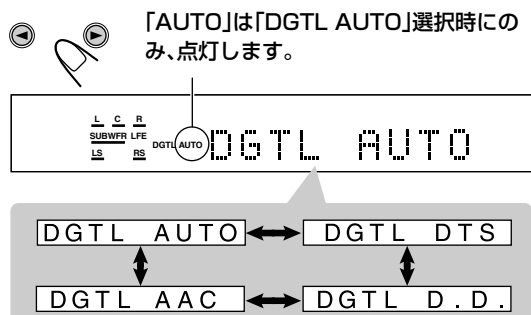
INPUT ANALOG/DIGITAL
DGTL AUTO

3 CONTROL ► (または ◄)ボタンをくり返し押して「DGTL DTS」、「DGTL D.D.」または「DGTL AAC」を選ぶ

(本体操作のみ)

押すごとに、次のように表示が変わります。

CONTROL

「AUTO」は「DGTL AUTO」選択時にのみ、点灯します。

DGTL AUTO ⟷ DGTL DTS ⟷ DGTL D.D. ⟷ DGTL AAC ⟷ DGTL AUTO

DGTL DTS	DTS音声を再生するときに選びます(DTS固定モード)。
DGTL D.D.	ドルビーデジタル音声を再生するときに選びます(ドルビーデジタル固定モード)。
DGTL AAC	MPEG-2 AAC音声を再生するときに選びます(AAC固定モード)。
DGTL AUTO	上記の固定モードを解除するときに選びます(デジタルオート)。

ご注意

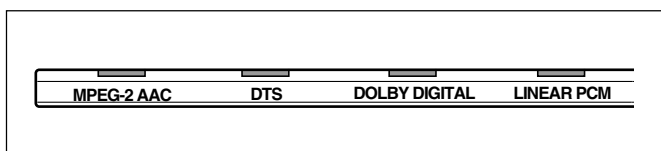
- 電源を「入/切」したり、他のソース(音源)に切り換えたときは、固定モードは自動的に解除され、デジタル入力はデジタルオート(DIGITAL AUTO)に戻ります。

<お知らせ>

- BSデジタルチューナーのデジタル音声信号が、リニアPCMからMPEG-2 AACに切り換わったときに、ノイズが発生することがあります。BSデジタルチューナーの設定を切り換えるときは、本機の音量(ボリューム)を最小にしてください。
- BSデジタルチューナーのデジタル音声信号の設定については、BSデジタルチューナーの取扱説明書をご覧ください。

デジタル音声入力表示ランプについて

デジタル音声入力表示ランプは、デジタル入力選択時に、異なった色に点灯·点滅したりして、次のことをお知らせします。

MPEG-2 AAC　DTS　DOLBY DIGITAL　LINEAR PCM

MPEG-2 AACランプ:

BSデジタル放送などのMPEG-2 AAC音声信号を識別すると点灯。

- **赤色点灯**:サラウンドが「ON」のときに、マルチチャンネル信号(2ch信号以外)を識別したとき
- **緑色点灯**:サラウンドが「OFF」のとき、または2ch信号を識別したとき
- **緑色点滅**:AAC固定モード選択中に、MPEG-2 AAC信号が識別されなかったとき

DTSランプ:

DTSで録音された音声信号を識別すると点灯。

- **赤色点灯**:サラウンドが「ON」のときに、マルチチャンネル信号(2ch信号以外)を識別したとき
- **緑色点灯**:サラウンドが「OFF」のとき、または2ch信号を識別したとき
- **緑色点滅**:DTS固定モード選択中に、DTS信号が識別されなかったとき

DOLBY DIGITALランプ:

ドルビーデジタルで録音された音声信号を識別すると点灯。

- **赤色点灯**:サラウンドが「ON」のときに、マルチチャンネル信号(2ch信号以外)を識別したとき
- **緑色点灯**:サラウンドが「OFF」のとき、または2ch信号を識別したとき
- **緑色点滅**:ドルビーデジタル固定モード選択中に、ドルビーデジタル信号が識別されなかったとき

LINEAR PCMランプ:

リニアPCM(CDなどの音声)で録音された音声信号が入力されているとき緑色に点灯。

CONTROL
▲/▼/►/◄ ボタン
表示窓
SETTINGボタン

サブウーハーを設定する (本体)

接続したサブウーハーを使用するかどうかを設定します。

途中で設定操作ができなくなったときは、手順1からやり直してください。

1 SETTINGボタンを押す

SETTING

CONTROLボタンが働くようになります。

2 CONTROL ▲ (または ▼)ボタンをくり返し押して「SUBWFR」*を表示させる

CONTROL

SUBWFR : NO VOL 23

*お買い上げ時は「NO」に設定されています。既に設定を変更しているときは、「YES」と表示されます。

3 CONTROL ► (または ◄)ボタンを押して「YES」を選ぶ

押すごとに、次のように表示が変わります。

CONTROL

SUBWFR :YES VOL 23

SUBWFR : NO ⟷ SUBWFR :YES

YES	サブウーハーを使用するときに選びます。表示窓のSUBWFR表示が点灯します。サブウーハーの出力レベルを調節できるようになります(25ページ)。
NO	サブウーハーをつないでいないとき、またはサブウーハーを使用しないときに選びます。

スピーカーサイズを設定する (本体)

DSP(デジタルシグナルプロセッサー)(28ページ)をより効果的にお楽しみいただくために、すべてのスピーカーの接続が終わってから次の設定を行います。

- スピーカーサイズ　:「FR SP」、「CTR SP」、「REAR SP」
- ディレイタイム(音場の調節):「CTR DL」、「REAR DL」
- クロスオーバー周波数　:「CROSS」
- ダイナミックレンジ　:「D.R.C.」
- 低音域のレベル　:「LFE」

途中で設定操作ができなくなったときは、手順1からやり直してください。また、スピーカーを変えたときは、新たに設定し直してください。

1 SETTINGボタンを押す

SETTING

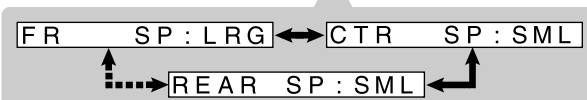
CONTROLボタンが働くようになります。

2 CONTROL ▲ (または ▼)ボタンをくり返し押して設定するスピーカーを表示させる

押すごとに、次のように表示が変わります。

CONTROL

FR SP:LRG VOL 23

FR SP:LRG ⟷ CTR SP:SML → REAR SP:SML → FR SP:LRG

FR SP (フロントスピーカー)
: フロントスピーカーのサイズを設定するときに選びます。[お買い上げ時:LRG]

CTR SP (センタースピーカー)
: センタースピーカーのサイズを設定するときに選びます。[お買い上げ時:SML]

REAR SP (リアスピーカー)
: リアスピーカーのサイズを設定するときに選びます。[お買い上げ時:SML]

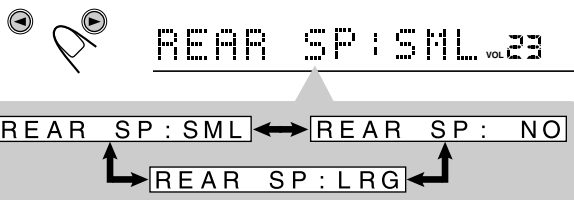
19ページへ続く

3 CONTROL ►（または ◄）ボタンをくり返し押してサイズを選ぶ

押すごとに、次のように表示が変わります。

CONTROL

REAR SP:SML VOL 23

REAR SP:SML ⟷ REAR SP: NO
REAR SP:LRG

例）リアスピーカーのサイズ

LRG（大）	：大きめのスピーカーを接続したときに選びます。下記のご注意もご覧ください。
SML（小）	：小さめのスピーカーを接続したときに選びます。下記のご注意もご覧ください。
NO（なし）	：スピーカーを接続していないときに選びます（フロントスピーカーでは選べません）。

4 手順2と3をくり返して、他のスピーカーのサイズを設定する

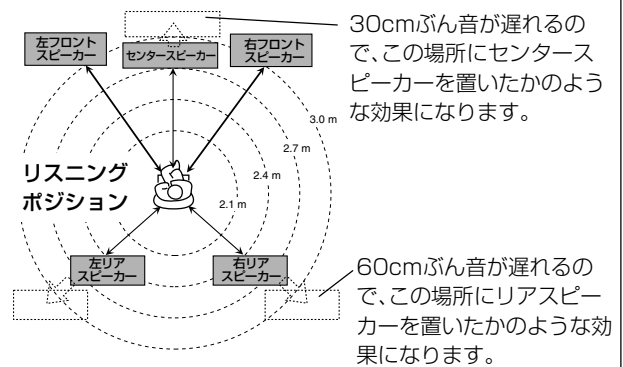
ご注意

- スピーカーサイズの設定の目安
  お使いのスピーカーに内蔵されているスピーカーユニットの口径が12cm以上なら「LRG」を選び、12cm以下なら「SML」を選んでください。
- サブウーハーの設定を「NO」に設定しているときは、フロントスピーカーのサイズは「LRG」しか選べません。
- フロントスピーカーのサイズを「SML」に設定したときは、リアスピーカーやセンタースピーカーを「LRG」に設定することはできません。

スピーカーの配置に合わせて音場を調節する

（本体）

ドルビーデジタル、DTSサラウンドや、MPEG-2 AACサラウンドで効果的な音場を構成するには、リスニングポジションから各スピーカーまでの距離が同じであることが理想的です。
本機では実際のスピーカー配置に合わせて、音場を調節することができます。
例えば、下の図のようなスピーカー配置のときはリアスピーカーとセンタースピーカーにディレイタイム(遅延時間)を設定し、音場を調節します。
ディレイタイムは、音が30cmを伝わる時間(1ms)を基準にして調節します(リスニングポジションからの距離がフロントスピーカーと同じときは0msとします)。

例）下図のようにスピーカーを置いたときは、センタースピーカーを「1ms」に、リアスピーカーを「2ms」に設定すると、それぞれリスニングポジションから3mの位置に配置したように音場を調節できます。

途中で設定操作ができなくなったときは、手順1からやり直してください。

1 SETTINGボタンを押す

SETTING

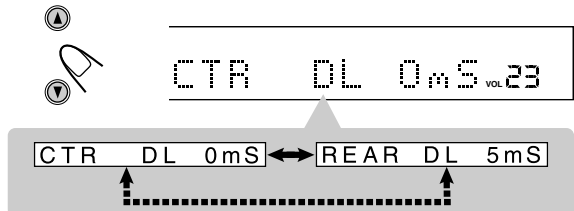
CONTROLボタンが働くようになります。

2 CONTROL ▲（または ▼）ボタンを押す

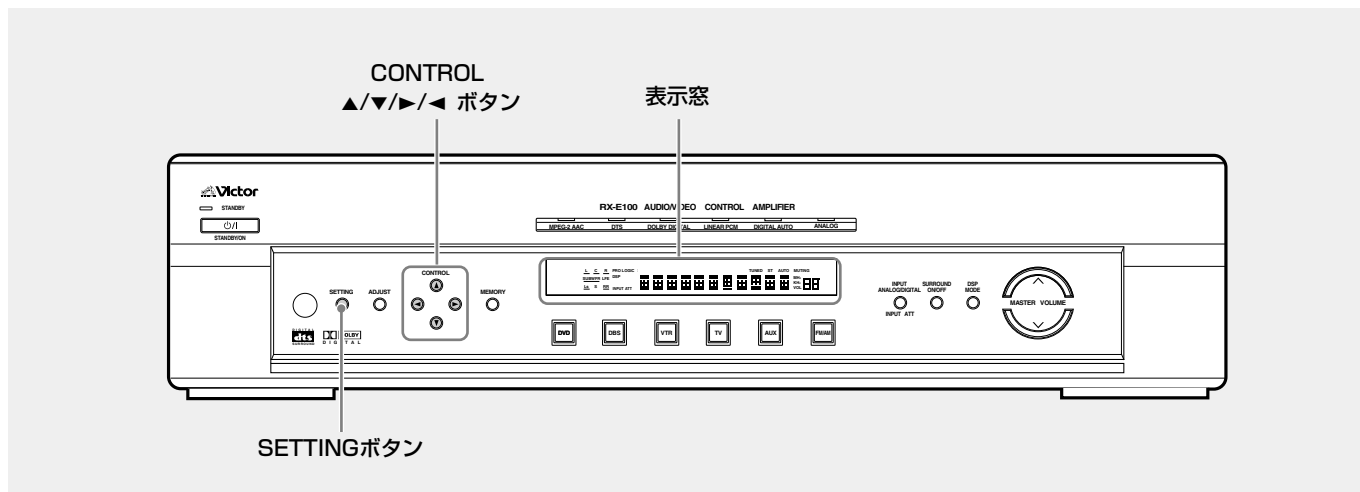
押すごとに、次のように表示が変わります。

CONTROL

CTR DL 0mS VOL 23

CTR DL 0mS ⟷ REAR DL 5mS

CTR DL	：センタースピーカーのディレイタイムを設定するときに選びます。「0ms」〜「5ms」の範囲で設定できます。[お買い上げ時:0ms]
REAR DL	：リアスピーカーのディレイタイムを設定するときに選びます。「0ms」〜「15ms」の範囲で設定できます。[お買い上げ時:5ms]

20 ページへ続く

CONTROL ▲/▼/►/◄ ボタン
表示窓
SETTINGボタン

3 CONTROL ► (または ◄)ボタンを押してディレイタイムを選ぶ

押すごとに、次のように表示が変わります。

CONTROL

CTR DL 0mS ◄····► CTR DL 5mS

例)センタースピーカーのディレイタイム

4 手順2と3をくり返して、他のスピーカーのディレイタイムを設定する

クロスオーバー周波数を設定する(本体)

小型スピーカーでは低音を効果的に再生できないことがあります。本機では、フロントスピーカー、センタースピーカー、リアスピーカーのいずれかに小型のスピーカーが使われているときに、その低音要素を他の大型スピーカーへ自動的に振り分けます。
この機能を正しく動作させるために、小型スピーカーのサイズに応じて、クロスオーバー周波数を設定します。

・「スピーカーサイズを設定する」(18ページ)ですべてのスピーカーを「LRG」に設定しているときは、この機能は働きません。

途中で設定操作ができなくなったときは、手順1からやり直してください。

1 SETTINGボタンを押す

SETTING

CONTROLボタンが働くようになります。

2 CONTROL ▲ (または ▼)ボタンをくり返し押して「CROSS」*を表示させる

CONTROL

CROSS: 100HZ

*お買い上げ時は「100Hz」に設定されています。既に設定を変更しているときは、他の周波数が表示されます。

3 CONTROL ► (または ◄)ボタンを押してクロスオーバー周波数を選ぶ

押すごとに、次のように表示が変わります。

CONTROL

CROSS: 100HZ ◄► CROSS: 120HZ → CROSS: 80HZ → CROSS: 100HZ

設定の目安

80Hz	スピーカーユニットの口径が12cm程度のときに選びます。
100Hz	スピーカーユニットの口径が10cm程度のときに選びます。
120Hz	スピーカーユニットの口径が8cm程度のときに選びます。

ダイナミックレンジを設定する（本体）

ダイナミックレンジ(最大音声と最小音声の差)を圧縮(コンプレッション)することができます。夜間にサラウンドをお楽しみいただくときに使います。

・この機能はドルビーデジタルの音声を再生しているときに限り働きます。また、再生するソース(音源)によって、効果の大きさは異なります。

途中で設定操作ができなくなったときは、手順1からやり直してください。

1 SETTINGボタンを押す

SETTING

CONTROLボタンが働くようになります。

2 CONTROL ▲ (または ▼)ボタンをくり返し押して「D.R.C.」*を表示させる

CONTROL

D.R.C. :MID VOL 23

*お買い上げ時は「MID」に設定されています。
既に設定を変更しているときは、他の設定が表示されます。

3 CONTROL ► (または ◄)ボタンを押してダイナミックレンジの設定を選ぶ

押すごとに、次のように表示が変わります。

CONTROL

D.R.C. :MID VOL 23

D.R.C. :MID ⟷ D.R.C. :MAX → D.R.C. :OFF → D.R.C. :MID

OFF	：ダイナミックレンジはそのままで、サラウンドを楽しみたいときに選びます。
MID	：ダイナミックレンジを少し圧縮したいときに選びます。
MAX	：ダイナミックレンジの圧縮を最大にしたいときに選びます(夜間など周囲の方に迷惑をかけたくないときに選びます)。

低音域のレベルを設定する（本体）

ドルビーデジタル、DTSサラウンドやMPEG-2 AACサラウンドの音声を再生中に、低音がひずむとき設定します。

・この機能は「サブウーハーを設定する」(18ページ)で「YES」を選んでいて、LEF音声信号が入力されたときに限り働きます。

途中で設定操作ができなくなったときは、手順1からやり直してください。

1 SETTINGボタンを押す

SETTING

CONTROLボタンが働くようになります。

2 CONTROL ▲ (または ▼)ボタンをくり返し押して「LFE」*を表示させる

CONTROL

LFE : 0dB VOL 23

*お買い上げ時は「0dB」に設定されています。
既に設定を変更しているときは、「−10dB」が表示されます。

3 CONTROL ► (または ◄)ボタンを押して低音域の設定値を選ぶ

押すごとに、次のように表示が変わります。

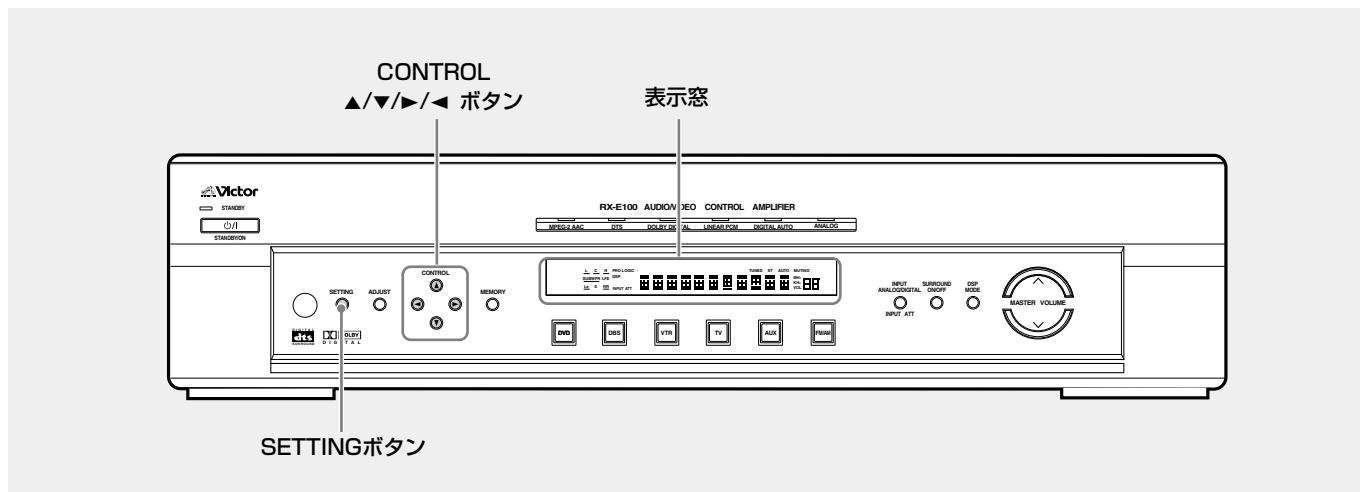
CONTROL

LFE : 0dB VOL 23

LFE : 0dB ⟷ LFE : −10dB

0dB	：通常はこれを選びます。
−10dB	：低音域がひずむときに選びます。

CONTROL ▲/▼/►/◄ ボタン

表示窓

SETTINGボタン

オートサラウンドを設定する (本体)

マルチチャンネルのデジタル音声信号を識別すると、自動的にサラウンドが「ON」になります。

途中で設定操作ができなくなったときは、手順1からやり直してください。

1 SETTINGボタンを押す

SETTING

CONTROLボタンが働くようになります。

2 CONTROL ▲ (または ▼)ボタンをくり返し押して「AUTO SR」*を表示させる

CONTROL

AUTO SR:OFF VOL 23

*お買い上げ時は「OFF」に設定されています。
既に設定を変更しているときは、「ON」と表示されます。

3 CONTROL ► (または ◄)ボタンを押して「ON」を選ぶ

押すごとに、次のように表示が変わります。

CONTROL

AUTO SR: ON VOL 23

AUTO SR: ON ⟷ AUTO SR:OFF

ON：オートサラウンドを使うときに選びます。
- マルチチャンネル音声を識別すると、自動的に最適なサラウンド設定に切り換わります。
- ドルビーデジタル、DTSサラウンド、MPEG-2 AACの2ch信号の場合は、「STEREO」再生に切り換わります。

OFF：オートサラウンドを使わないときに選びます。

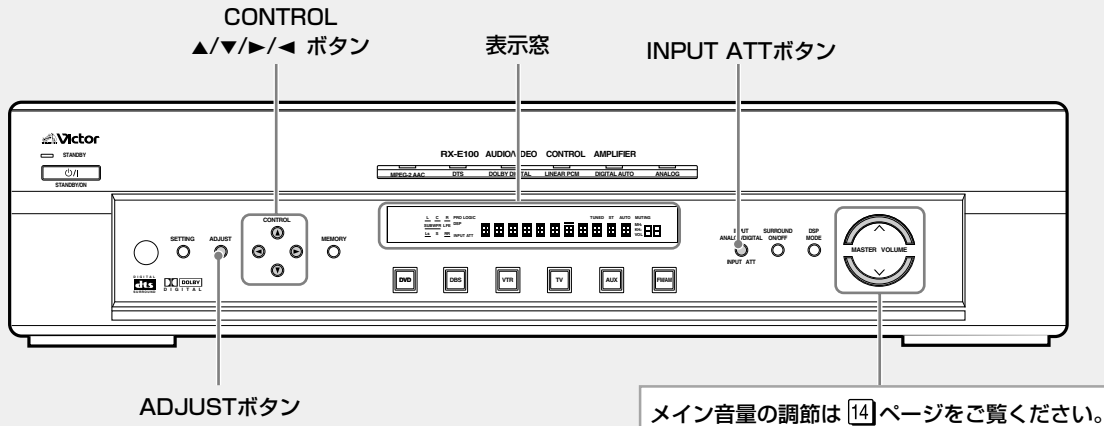
ご注意

- 次のときは、オートサラウンドは働きません。
  - アナログ音声入力が選ばれているとき
  - リニアPCMで録音されたソフトを再生中のとき
  - デジタル音声固定入力(ドルビーデジタル、DTSサラウンド、MPEG-2 AAC)が選ばれているとき(17 ページ)
- オートサラウンドが「ON」になっているときは、他のDSPが選ばれていても、マルチチャンネルのデジタル音声信号を識別すると選択中のDSPは一時的に解除されます。
  マルチチャンネルのデジタル音声信号が識別されなくなると、元のDSPに戻ります。
- オートサラウンドが「ON」になっているときに、SURROUND ON/OFFボタンやDSP MODEボタン(またはリモコンのサラウンドオン/オフボタンやDSPモードボタン)を押すと、一時的にオートサラウンドは解除(「OFF」)されます。
  また、次のときは、オートサラウンドは「ON」に戻ります。
  - 電源を「入/切」する
  - 他のソース(音源)を選ぶ
  - オートサラウンドをもう一度「ON」にする

オートサラウンドを解除するには

手順3で、「OFF」を選びます。

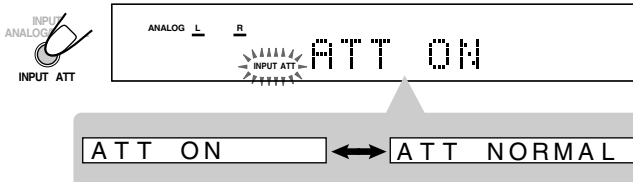
音量・音質の調節

音声の調節はリモコンでできるものもあります。
詳しくは、「リモコン操作」をご覧ください。（39ページ）

アナログ信号の入力レベルを調節する（本体）

アナログ音声信号の入力レベルが高すぎるときは、音声がひずんで聞こえることがあります。このようなときは、アナログ信号の入力レベルを下げることができます。

・ソース(音源)ごとに設定できます。(アナログ音声入力選択時のみ)

1 INPUT ATT (INPUT ANALOG/DIGITAL)ボタンを2秒以上押し続けて「ATT ON」を表示させる

ボタンを2秒以上押すごとに、次のように表示が変わります。

ON	：音がひずむときに選びます。「ON」が選ばれているときは、INPUT ATT表示が表示窓に点灯します。
NORMAL	：通常はこの設定にしておきます。

*ATTとは：Attenuator(アッテネーター)の略字で減衰器のことです。

フロントスピーカーのバランスを調節する（本体）

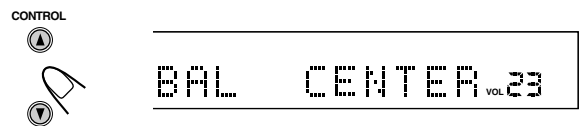
左右のフロントスピーカーがリスニングポイントから同じ距離に置けないときは、左右のフロントスピーカーの音量バランスを調節します。

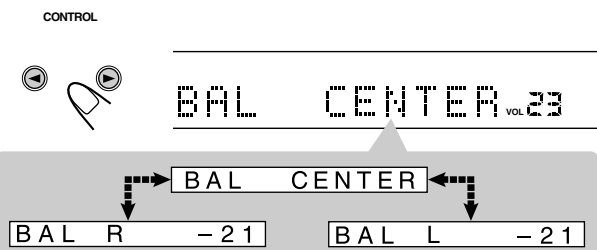
・ソース(音源)ごとに設定できます。

途中で調節操作ができなくなったときは、手順1からやり直してください。

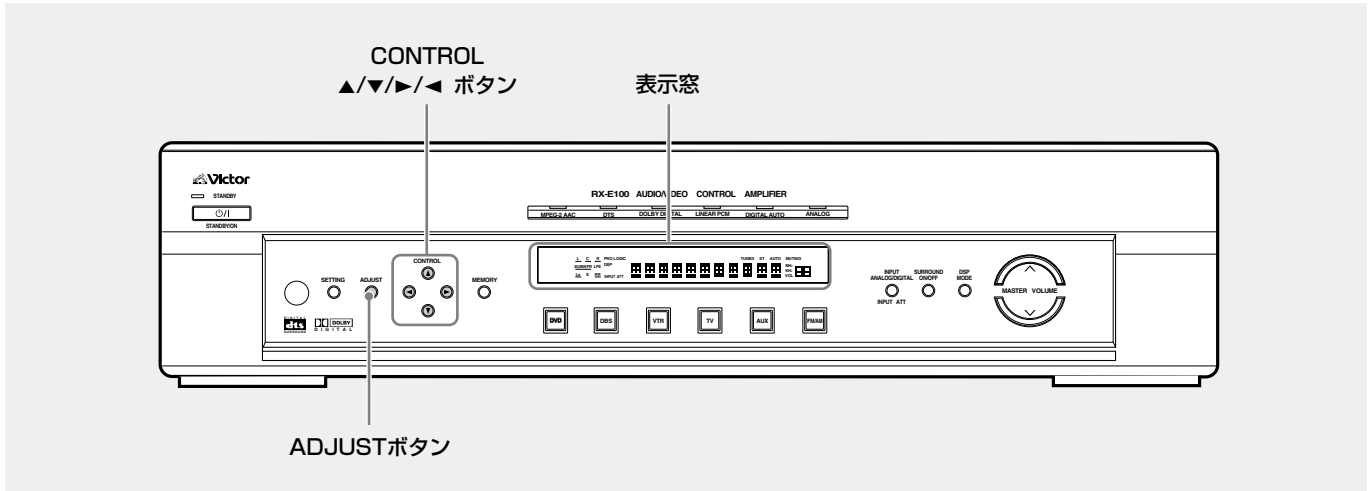
1 ADJUSTボタンを押す

CONTROLボタンが働くようになります。

2 CONTROL ▲（または ▼）ボタンをくり返し押して「BAL CENTER」*を表示させる

*お買い上げ時は「CENTER」に設定されています。
既に設定を変更しているときは、他の数値が表示されます。

3 CONTROL ►（または ◄）ボタンをくり返し押して調節する

・CONTROL ► ボタンを押すと左スピーカーの出力が下がります。
CONTROL ◄ ボタンを押すと右スピーカーの出力が下がります。
・「R −21」〜「CENTER」〜「L −21」の範囲で調節できます。

CONTROL
▲/▼/►/◄ ボタン

表示窓

ADJUSTボタン

バスブースト（低音強調）を設定する

フロントスピーカーの低音を強調することができます。
・ソース（音源）ごとに設定できます。

途中で設定操作ができなくなったときは、手順1からやり直してください。

1 ADJUSTボタンを押す

ADJUST

CONTROLボタンが働くようになります。

2 CONTROL ▲（または ▼）ボタンをくり返し押して「B. BOOST OFF」*を表示させる

CONTROL

B.BOOST OFF VOL 23

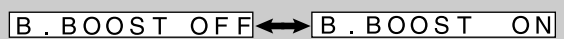
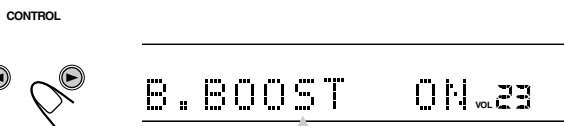
*お買い上げ時は「OFF」に設定されています。
既に設定を変更しているときは、「ON」と表示されます。

3 CONTROL ►（または ◄）ボタンを押して「B.BOOST ON」を表示させる

押すごとに、次のように表示が変わります。

CONTROL

B.BOOST ON VOL 23

B.BOOST OFF ⟷ B.BOOST ON

ON	：低音を強めたいときに選びます。
OFF	：通常はこの設定にしておきます。

ご注意

- バスブーストはフロントスピーカーに限り働きます。

リモコンで設定するには

バスブーストボタンを押す。
押すごとに、「ON」または「OFF」が選べます。

バスブースト

音質を調節する

フロントスピーカーの高音と低音をお好みに合わせて調節します。

・ソース(音源)ごとに設定できます。

途中で調節操作ができなくなったときは、手順1からやり直してください。

1 ADJUSTボタンを押す

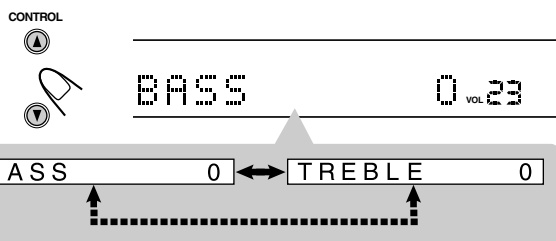
ADJUST

CONTROLボタンが働くようになります。

2 CONTROL ▲(または ▼)ボタンを押して「BASS」*または「TREBLE」*を表示させる

CONTROL

BASS 0 VOL 23

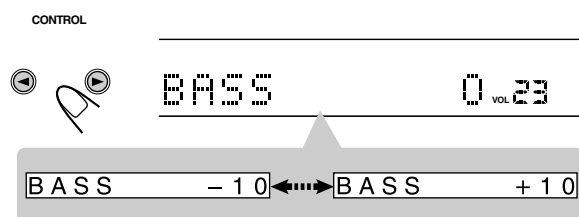
BASS 0 ⟷ TREBLE 0

BASS(バス)	:低音を調節するときに選びます。
TREBLE(トレブル)	:高音を調節するときに選びます。

*お買い上げ時は「0」に設定されています。
既に設定を変更しているときは、他の数値が表示されます。

3 CONTROL ►(または ◄)ボタンを押して音質を調節する

CONTROL

BASS 0 VOL 23

BASS −10 ⟷ BASS +10

例)低音の調節のとき

・CONTROL ► ボタンを押すごとに「2」ずつ低音または高音が上がります。
CONTROL ◄ ボタンを押すごとに「2」ずつ低音または高音が下がります。
・「−10」〜「0」〜「+10」の範囲で調節できます。

リモコンで調節するには

バス+/−ボタンまたはトレブル+/−ボタンをくり返し押す。

＋ バス − ＋ トレブル −

低音を調節するとき　高音を調節するとき

サブウーハーの出力レベルを調節する

サブウーハーを使っているときは、サブウーハーの出力レベルを調節します。

・この機能は「サブウーハーを設定する」(18ページ)で「YES」を選んでいるときに限り働きます。
・ソース(音源)ごとに設定できます。

途中で調節操作ができなくなったときは、手順1からやり直してください。

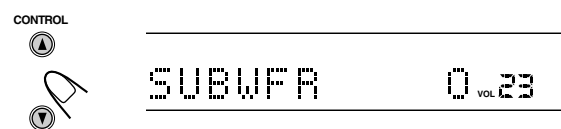
1 ADJUSTボタンを押す

ADJUST

CONTROLボタンが働くようになります。

2 CONTROL ▲(または ▼)ボタンをくり返し押して「SUBWFR」*を表示させる

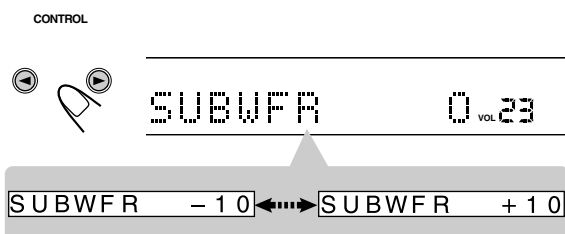
CONTROL

SUBWFR 0 VOL 23

*お買い上げ時は「0」に設定されています。
既に設定を変更しているときは、他の数値が表示されます。

3 CONTROL ►(または ◄)ボタンを押して出力レベルを調節する

CONTROL

SUBWFR 0 VOL 23

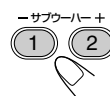
SUBWFR −10 ⟷ SUBWFR +10

・CONTROL ► ボタンを押すと出力レベルが上がります。
CONTROL ◄ ボタンを押すと出力レベルが下がります。
・「−10」〜「0」〜「+10」の範囲で調節できます。

リモコンで調節するには

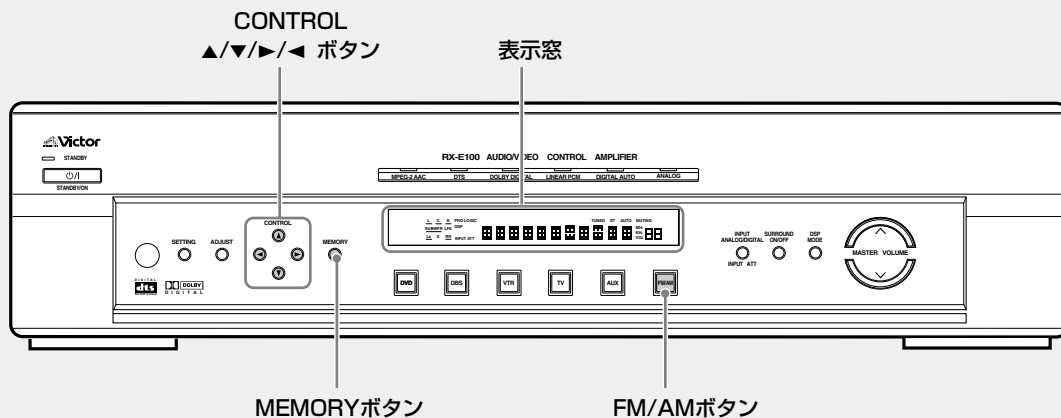
1. サウンドボタンを押す。

2. サブウーハー+/−ボタンをくり返し押す。

サウンド

− サブウーハー ＋ 1 2

ラジオを聞く

ラジオの操作はリモコンでできるものもあります。
詳しくは、「リモコン操作」をご覧ください。(39 ページ)

CONTROL
▲/▼/►/◄ ボタン
表示窓
MEMORYボタン
FM/AMボタン

放送局を選ぶ

1 FM/AMボタンを押して「FM」または「AM」を選ぶ

押すごとに「FM」または「AM」に切り換わります。

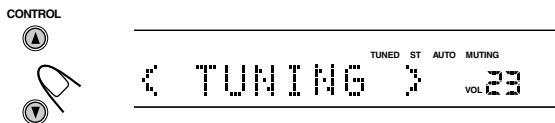
FM/AM

TUNED ST AUTO MUTING
FM 76.0 MHz VOL 23

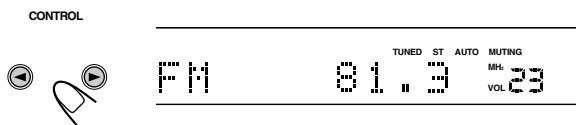
例)FM放送のとき

2 CONTROL ▲ (または ▼)ボタンをくり返し押して「TUNING」を表示させる

CONTROL

TUNED ST AUTO MUTING
< TUNING > VOL 23

3 CONTROL ► (または ◄)ボタンを押し続けて(またはくり返し押して)聞きたい放送局を選ぶ

CONTROL

TUNED ST AUTO MUTING
FM 81.3 MHz VOL 23

- CONTROL ► ボタンを押すと周波数が上がります。
- CONTROL ◄ ボタンを押すと周波数が下がります。

- CONTROL ► または ◄ ボタンを押し続け、周波数が変わり始めたら指を離してください。放送局を受信すると、選局が止まり、表示窓のTUNED表示が点灯します(**オート選局**)。
- CONTROL ► または ◄ ボタンを「ポン･ポン」と押すと、FM放送は0.1MHzずつ、AM放送は9kHzずつ変わります(**マニュアル選局**)。
- FMステレオ放送を受信するとST(ステレオ)表示が点灯します。

<お知らせ>
テレビの1～3チャンネルは、周波数が合わないため、うまく受信できません。これはテレビの音声が50kHz間隔のためで、故障ではありません。

リモコンで操作するには

1. **FM/AMボタンを押す。**
   押すごとに「FM」または「AM」に切り換わります。
   FM / AM
2. **チューニングアップ (またはチューニングダウン)ボタンを押し続けて(またはくり返し押して)聞きたい放送局を選ぶ。**
   チューニング ダウン　チューニング アップ
   - チューニングアップボタンを押すと周波数が上がります。
   - チューニングアップボタンを押すと周波数が上がります。

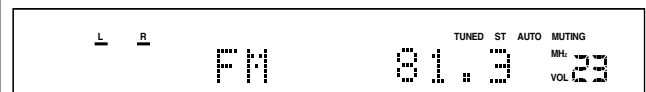
放送局を記憶させる (本体)

一度放送局を記憶させておくと、次からは簡単に放送局を選ぶことができます。
FM放送を30局、AM放送を15局まで記憶できます。

途中で設定操作ができなくなったときは、手順1からやり直してください。

1 記憶させたい放送局を選ぶ(「放送局を選ぶ」を参照)

FM放送局を記憶させるときには、FM受信モード(27 ページ)も同時に記憶させることができます。

L R　TUNED ST AUTO MUTING
FM 81.3 MHz VOL 23

2 MEMORYボタンを押す

プリセット番号の表示位置「＿ ＿」が約10秒間点滅します。

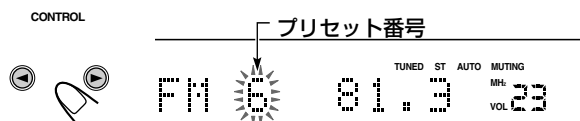
MEMORY

TUNED ST AUTO MUTING
FM __ 81.3 MHz VOL 23

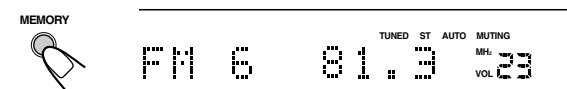
27 ページへ続く

3 プリセット番号の表示位置「＿ ＿」が点滅している間に、CONTROL ► (または ◄)ボタンをくり返し押してプリセット番号を選ぶ

プリセット番号(例は6)が点滅します。

CONTROL
プリセット番号
FM 6 81.3 VOL 23

4 プリセット番号が点滅している間に、MEMORYボタンを押す

プリセット番号の点滅が止まり、選んだ放送局がその番号に記憶されます。

MEMORY
FM 6 81.3 VOL 23

5 手順1～4をくり返して、他の放送局も記憶させる

記憶させた放送局を削除するには

同じプリセット番号に新しい放送局を記憶させると、もとの放送局の記憶は消えます。

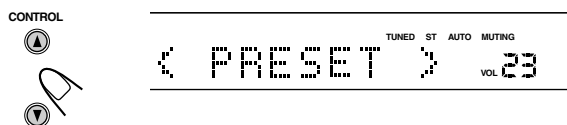
記憶してある放送局を選ぶ(プリセット選局)

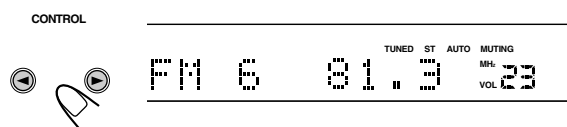
1 FM/AMボタンを押して「FM」または「AM」を選ぶ

押すごとに「FM」または「AM」に切り換わります。
選んだバンドで最後に聞いていた放送局が表示されます。

FM/AM
FM 80.0 VOL 23
例)FM放送のとき

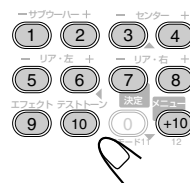
2 CONTROL ▲ (または ▼)ボタンをくり返し押して「PRESET」を表示させる

CONTROL
< PRESET > VOL 23

3 CONTROL ► (または ◄)ボタンをくり返し押して聞きたい放送局のプリセット番号を選ぶ

CONTROL
FM 6 81.3 VOL 23

・CONTROL ► ボタンを押すとプリセット番号が上がります。
・CONTROL ◄ ボタンを押すとプリセット番号が下がります。

リモコンで操作するには

1. FM/AMボタンを押す。
押すごとに「FM」または「AM」に切り換わります。

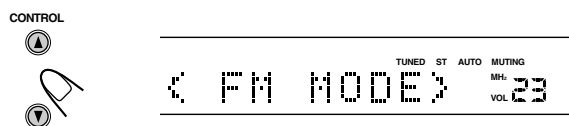
2. 数字ボタンを押してプリセット番号を選ぶ。
例) ・プリセット番号「5」を選ぶには：
(5)を押す。
・プリセット番号「15」を選ぶには：
(+10) → (5)と押す。
・プリセット番号「20」を選ぶには：
(+10) → (10)と押す。
・プリセット番号「30」を選ぶには：
(+10) → (+10) → (10)と押す。

FM受信モードを設定する

FMステレオ放送が雑音で聞きにくいときは、受信モードを変更してください。

・受信モードは放送局ごとに記憶できます。

途中で設定操作ができなくなったときは、手順1からやり直してください。

1 FM放送を受信中に、CONTROL ▲ (または ▼)ボタンをくり返し押して「FM MODE」を表示させる

CONTROL
< FM MODE > VOL 23

2 CONTROL ► (または ◄)ボタンを押して「MONO」を選ぶ

押すごとに、下記のようにFM受信モードが変わります。

CONTROL
MONO VOL 23

MONO ⟷ AUTO MUTING

お買い上げ時は「AUTO MUTING」に設定されています。

MONO：FMステレオ放送が雑音で聞きにくいときに選びます。音声がモノラルになり、表示窓のAUTO MUTING表示が消えます。

AUTO MUTING
：通常はこれを選びます。ステレオ放送のときはステレオで、モノラル放送のときはモノラルで聞こえます。このモードにすると選局中の「サー」という雑音も消すことができます。AUTO MUTING表示が点灯します。

ステレオ音声に戻すには

手順2で、「AUTO MUTING」を選びます。

リモコンで操作するには

FM放送を受信しているときに、FMモード(数字ボタンの「0」)ボタンを押して「MONO」表示させる。

・ 本体のボタンでFM放送を選局したときは、FMモードボタンは働きません。(40ページ)

DSPを使う

リアルな音場を創り出すDSP(Digital Signal Processor)には下記の3種類があります。

· サラウンド
· ビクター·シアターサラウンド
· DAP

サラウンド

サラウンドを効果的にお楽しみいただくには、フロントスピーカーの他にリアスピーカーまたはセンタースピーカーを接続する必要があります。

ドルビーサラウンド*およびドルビーデジタル*

DOLBY SURROUND マークまたは DOLBY DIGITAL マークの付いた映画や音楽ソフトを再生できます。
ドルビーサラウンド方式では、フロント左右、センター、リア(モノラル)の4ch音声を2chに記録しています。
本機にはドルビープロロジックデコーダーが内蔵されていますので、ドルビーサラウンド方式で記録された2ch音声から4ch音声をマトリクス回路で取り出し再生します。これにより、立体感·包囲感のあるサラウンドをお楽しみいただけます。

一方、**ドルビーデジタル方式**は、フロント左右、センター、リア左右、サブウーハーの5.1ch(サブウーハーは0.1chと数えられます)の音声をデジタル圧縮するシステムです。各チャンネルを完全に独立した音声として再生するので、チャンネル間の干渉も少なく、より優れた音質でより立体的なサラウンドが再現できます。本機にはドルビーデジタルデコーダーが内蔵されていますので、映画館や劇場に匹敵するドルビーデジタルの臨場感がお楽しみいただけます。また、ドルビーサラウンドではリアの高音域は7kHzでカットされますが、ドルビーデジタルでは20kHzまで再生され、しかもステレオなので、音の移動感や臨場感がより高まります。

· ドルビーデジタル録音のソフトを再生するには、お使いになる機器を背面のデジタル入力端子に接続してください。(10～12ページ)

* 本機はドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
DOLBY DIGITAL、ドルビー、Dolby、ダブルD記号DD、ドルビープロロジックおよびドルビーデジタルは、ドルビーラボラトリーズの商標です。

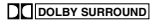
DTSサラウンド **

本機に内蔵のDTSデコーダーにより、DTS DIGITAL SURROUND マークの付いた映像ソフトが再生できます。
DTSサラウンドは、CD、LD、DVDなどに使われています。ドルビーデジタル同様5.1chのデジタル音声フォーマットですが、音声圧縮率を低く設定してあるため、厚みのあるより高音質な再生が可能となります。

· DTSサラウンド録音のソフトを再生するには、お使いになる機器を背面のデジタル入力端子に接続してください。(10～12ページ)

** 本機はデジタルシアターシステムズ社からの実施権に基づき製造されています。DTSおよびDTS Digital Surroundは、デジタルシアターシステムズ社の商標です。

MPEG-2 AAC(Advanced(アドバンスド) Audio(オーディオ) Coding(コーディング))サラウンド

MPEG-2オーディオの標準方式の一つで、2000年12月から始まったBSデジタル放送で採用されている音声符合化規格です。
低ビットレートでかつ高音質を確保できる点が特長で、番組内容によりマルチチャンネルの放送が可能なデジタル音声方式です。

· MPEG-2 AACサラウンドの音声を聞くには、お使いになる機器を背面のデジタル入力端子に接続してください。(10～12ページ)

以下が米国パテントナンバーです。

5,848,391; 5,291,557; 5,451,954;
5 400 433; 5,222,189; 5,357,594;
5 752 225; 5,394,473; 5,583,962;
5,274,740; 5,633,981; 5 297 236;
4,914,701; 5,235,671; 07/640,550;
5,579,430; 08/678,666; 98/03037;
97/02875; 97/02874; 98/03036;
5,227,788; 5,285,498; 5,481,614;
5,592,584; 5,781,888; 08/039,478;
08/211,547; 5,703,999; 08/557,046;
08/894,844

ビクター·シアターサラウンド

DOLBY SURROUND マークの付いたソフトをさらに効果的に再現するためのビクター独自のサラウンドです。
シアターサラウンドは人の声をはっきりさせ、よりリアルな臨場感を再現します。音声はフロントスピーカー、センタースピーカー、リアスピーカーから再生されます。

· シアターサラウンドをお楽しみいただくには、フロントスピーカーの他にリアスピーカーを接続する必要があります。
· シアターサラウンド再生中は、表示窓のPRO LOGIC表示とDSP表示が点灯します。

DAP (Digital Acoustic Processor)

コンサートホールやライブハウスなどで聞く音は、音源から直接耳に届く音**(直接音)**と天井や壁などに反射してから耳に届く音**(初期反射音)**、そして何回も反射をくり返してから耳に届く音**(残響音)**によって構成されています。これらの反射音/残響音は、リスナーと天井、リスナーと壁の距離によって様々な遅延時間をもった音となり、コンサートなどでは、直接音とこれらの反射音/残響音によって、音場が作り出されています。本機に搭載されているDAP(デジタル·アコースティック·プロセッサー)は、これらの反射音や残響音をデジタル信号処理により創り出し、コンサートホールやライブハウスなどの臨場感を再現します。

本機で再生されるDAP

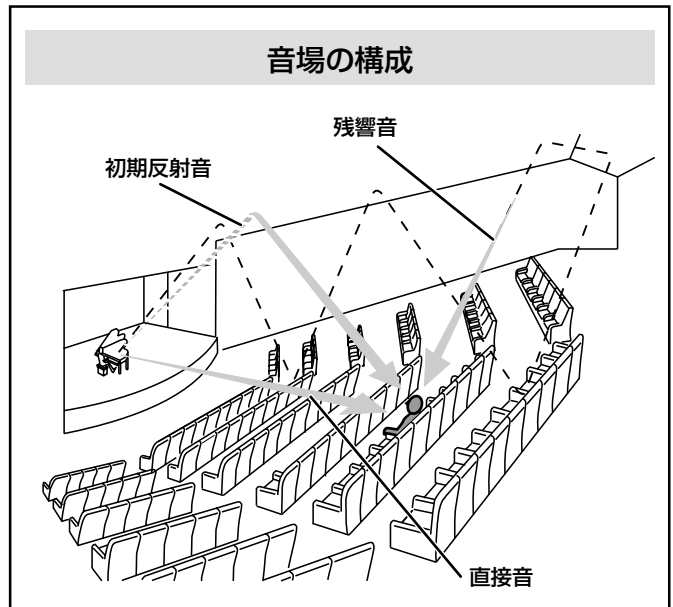
LIVE CLUB(ライブクラブ):
天井の低いライブハウスにいるような雰囲気です。

DANCE CLUB(ダンスクラブ):
激しい低音のビートを刻みます。ディスコにいるような雰囲気です。

HALL(ホール):
ボーカルがはっきりします。コンサートホールにいるような雰囲気です。

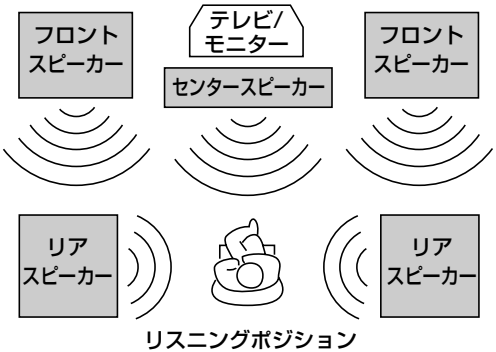
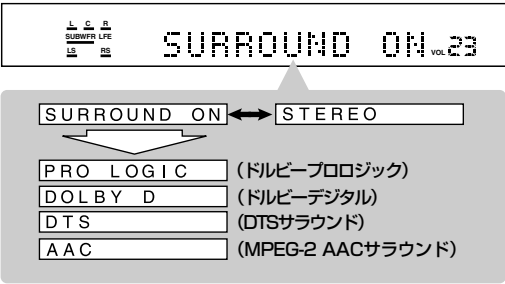
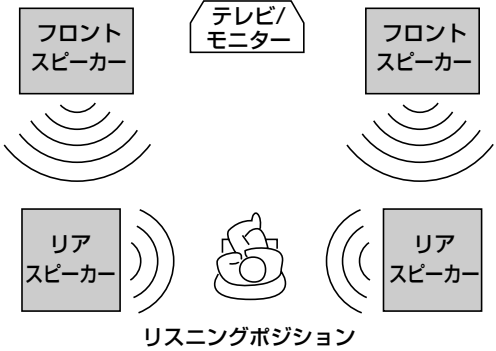
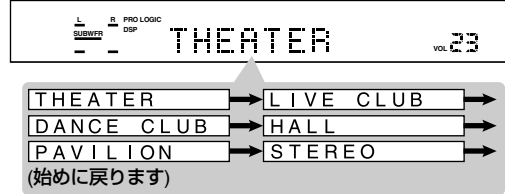
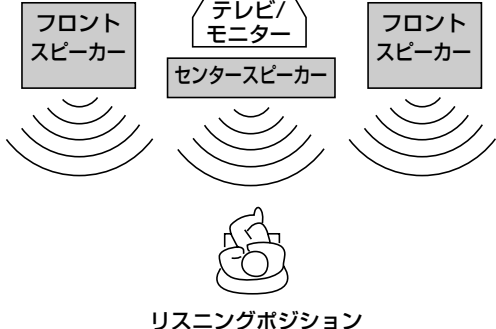
PAVILION(パビリオン):
天井の高い展示会場にいるような雰囲気です。

DAPはアナログステレオ音声やリニアPCMデジタル音声で録音されたソフトを再生するときに音響効果を加え、臨場感を出します。
· DAPをお楽しみいただくには、フロントスピーカーの他にリアスピーカーを接続する必要があります(センタースピーカーは特に必要ではありません。センタースピーカーを接続していても音声は出ません)。
· DAPが選ばれているときは、表示窓のDSP表示が点灯します。

音場の構成

入力信号/DSP対応表

○: 選択可
×: 選択不可

DSP / 入力信号	SURROUND	THEATER	LIVE CLUB	DANCE CLUB	HALL	PAVILION	STEREO
アナログ (ANALOGランプが点灯)	○ (ドルビープロロジック)	○	○	○	○	○	○
リニアPCM (LINEAR PCMランプが点灯)	○ (ドルビープロロジック)	○	○	○	○	○	○
ドルビーデジタル (DOLBY DIGITALランプが点灯)	○ *1 (ドルビーデジタル)	×	×	×	×	×	○
DTS (DTSランプが点灯)	○ *2 (DTSサラウンド)	×	×	×	×	×	○
AAC (MPEG-2 AACランプが点灯)	○ *3 (AACサラウンド)	×	×	×	×	×	○

*1 入力信号が2chの場合はドルビープロロジック、それ以外はドルビーデジタルとなります。
*2 入力信号が2chの場合はドルビープロロジック、それ以外はDTSサラウンドとなります。
*3 入力信号が2chの場合はドルビープロロジック、それ以外はAACサラウンドとなります。

DSPを使うためのスピーカー配置

お手持ちのスピーカーの数によって、創り出せるサラウンド効果が異なります。
ただし、フロントスピーカーしかお持ちでないときはDSPをお使いになれません。
創り出せる効果とスピーカーの数については下記の表を参考にしてください。
また、スピーカーの音場の調節については「スピーカーの配置に合わせて音場を調節する」(19ページ)をご覧ください。

スピーカーの配置	お使いになれるDSP
5チャンネル フロントスピーカー / テレビ/モニター / センタースピーカー / フロントスピーカー リアスピーカー / リアスピーカー リスニングポジション	**サラウンド** SURROUND ON/OFFボタンまたはサラウンドオン/オフボタンを押すごとにサラウンド設定は下記のように切りかわります。 SURROUND ON/OFF(本体前面) サラウンドオン/オフ(リモコン) SURROUND ON ↔ STEREO PRO LOGIC (ドルビープロロジック) DOLBY D (ドルビーデジタル) DTS (DTSサラウンド) AAC (MPEG-2 AACサラウンド)
4チャンネル フロントスピーカー / テレビ/モニター / フロントスピーカー リアスピーカー / リアスピーカー リスニングポジション	**DSPモード** DSP MODEボタンまたはDSPモードボタンをくり返し押すごとにDSPは下記のように切りかわります。 DSP MODE(本体前面) DSPモード(リモコン) THEATER → LIVE CLUB → DANCE CLUB → HALL → PAVILION → STEREO → (始めに戻ります)
3チャンネル フロントスピーカー / テレビ/モニター / センタースピーカー / フロントスピーカー リスニングポジション	**サラウンド** SURROUND ON/OFFボタンまたはサラウンドオン/オフボタンを押すごとにサラウンド設定は下記のように切りかわります。 SURROUND ON/OFF(本体前面) サラウンドオン/オフ(リモコン) SURROUND ON ↔ STEREO PRO LOGIC (ドルビープロロジック) DOLBY D (ドルビーデジタル) DTS (DTSサラウンド) AAC (MPEG-2 AACサラウンド)

オートサラウンドを「ON」に設定しているときは

マルチチャンネルのデジタル音声信号を識別すると、自動的にサラウンドが「ON(入)」になります(「オートサラウンドを設定する」22ページ)。

サラウンドを使う（リモコン）

DSPを設定するときはリモコンを使って操作してください。お聞きになる位置（リスニングポジション）で、テストトーンを聞きながら調節できます。

・本体前面のボタンを使って操作するときは 35 〜 36 ページをご覧ください。

サラウンド オン/オフ

サウンド

センター +/−

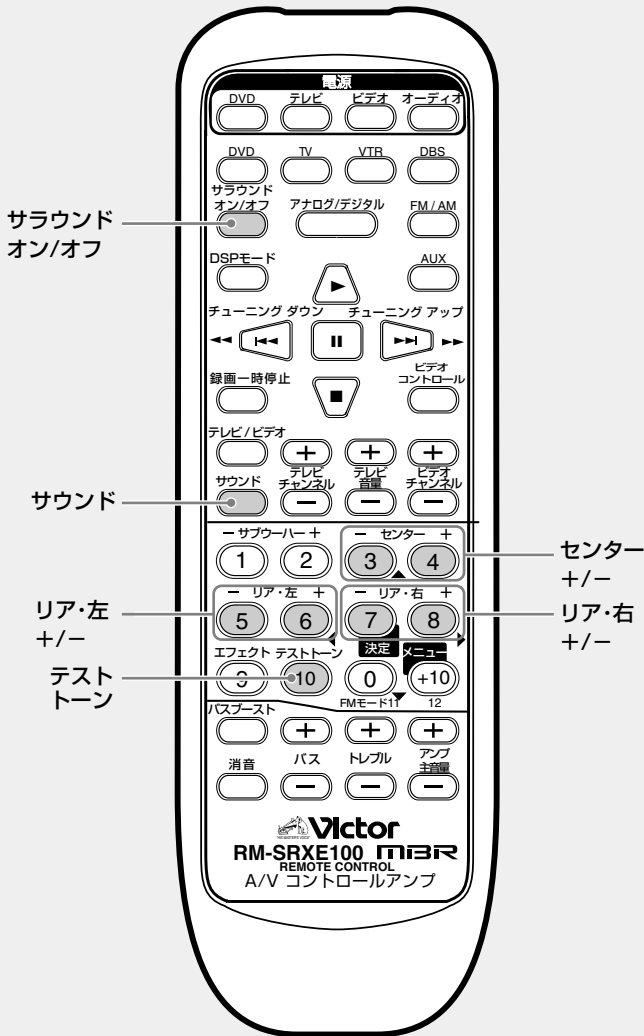
リア・左 +/−

リア・右 +/−

テスト トーン

電源
DVD テレビ ビデオ オーディオ
DVD TV VTR DBS
サラウンド オン/オフ アナログ/デジタル FM / AM
DSPモード AUX
チューニング ダウン チューニング アップ
録画一時停止 ビデオ コントロール
テレビ / ビデオ
サウンド テレビ チャンネル テレビ 音量 ビデオ チャンネル
− サブウーハー + − センター +
1 2 3 4
− リア・左 + − リア・右 +
5 6 7 8
エフェクト テストトーン 決定 メニュー
9 10 0 +10
バスブースト FMモード11 12
消音 バス トレブル アンプ 主音量
Victor
RM-SRXE100 MBR
REMOTE CONTROL
A/V コントロールアンプ

ご注意

• アナログ音声を再生するときは、「SURROUND ON」は表示されず、サラウンドオン/オフボタンを押すと、すぐに「PRO LOGIC」が選ばれ、表示されます。

サラウンドは他のDSPと同時に使うことはできません。サラウンドを選ぶと他のDSPは解除されます。

・ソース（音源）ごとに設定します。

設定する前に…

・スピーカーサイズの設定を行ってください。（ 18 、 19 ページ）
・センタースピーカーを「NO」に設定（ 18 ページ）しているときは、センタースピーカーからテストトーンは出力されず、出力レベルも調節できません。
・リアスピーカーを「NO」に設定（ 18 ページ）しているときは、リアスピーカーからテストトーンは出力されず、出力レベルも調節できません。
・ＤＳＰが使われているときは、スピーカーサイズの設定（ 18 ページ）を変えないでください。DSPが解除されることがあります。

1 ソース機器選択ボタンで、ソース（音源）を選び、映像や音楽ソフトを再生する

オートサラウンドが「ON」になっているときは、マルチチャンネルのソフトを再生すると自動的にサラウンドが「入（ON）」になります。

2 サラウンドオン/オフボタンを押してサラウンドを「ON（入）」にする

入力信号の種類によって、最適なサラウンド（「PRO LOGIC」、「DOLBY D」、「DTS」、または「AAC」）が自動的に選ばれ、表示されます。

・押すごとにサラウンドは「ON（入）/STEREO(切)」します。

サラウンド オン/オフ

SURROUND ON VOL 23

その後

DOLBY D VOL 23

例）ドルビーデジタルが選ばれたとき

サラウンドを調節したいときは、次の手順に進みます。

3 サウンドボタンを押す

サウンド

数字ボタンで音声が調節できるようになります。

4 テストトーンボタンを押してスピーカーの出力バランスを確認する

テストトーン 10

TEST L VOL 23

「TEST L」が点滅し、下記の順で各スピーカーからテストトーンが出ます。

TEST L（左フロントスピーカー）→ TEST C（センタースピーカー）→ TEST R（右フロントスピーカー）→ TEST RS（右リアスピーカー）→ TEST LS（左リアスピーカー）

32 ページへ続く

5 スピーカーの出力レベルを調節する

「−10」〜「+10」の範囲で調節できます。
フロントスピーカーと同じ出力レベルで聞こえるよう調節します。

センター+/−ボタンを押してセンタースピーカーの出力レベルを調節する。

− センター +
3 4

CENTER 0 VOL 23

CENTER −10 ←→ CENTER +10

リア・左+/−ボタンを押して左リアスピーカーの出力レベルを調節する。

− リア・左 +
5 6

REAR L 0 VOL 23

REAR L −10 ←→ REAR L +10

リア・右+/−ボタンを押して右リアスピーカーの出力レベルを調節する。

− リア・右 +
7 8
決定

REAR R 0 VOL 23

REAR R −10 ←→ REAR R +10

お買い上げ時は、すべてのスピーカーの出力レベルが「0」に設定されています。

6 テストトーンボタンを押してテストトーンを止める

テストトーン
10

OFF VOL 23

<お知らせ>
スピーカーからテストトーンを出力しなくても、再生音を聞きながら出力レベルが調節できます。

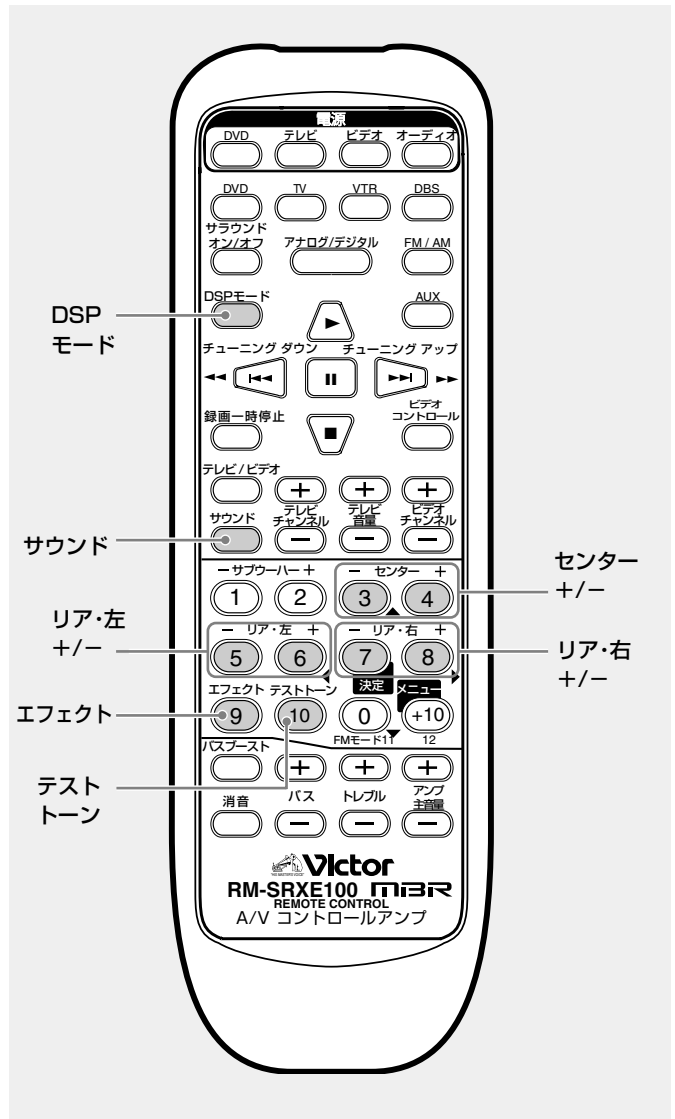
サラウンドを解除するには

サラウンドオン/オフボタンを押して「STEREO」を表示させる。

・マルチチャンネルのソフトを再生中にサラウンドを解除すると、すべての音声がミックスされてフロントスピーカー(とサブウーハー)から出ます。

ビクター・シアターサラウンドを使う(リモコン)

シアターサラウンドは他のDSPと同時に使うことはできません。シアターサラウンドを選ぶと他のDSPは解除されます。

・ソース(音源)ごとに設定します。
・リアスピーカーを「NO」に設定(18 ページ)しているときは、シアターサラウンドは選べません。
・本体前面のボタンを使って操作するときは、36 〜 37 ページをご覧ください。

1 ソース機器選択ボタンで、ソース(音源)を選び、ドルビーサラウンドで録音された映像ソフトを再生する

2 DSPモードボタンを押して「THEATER」を表示させる

表示窓のPRO LOGIC表示とDSP表示が点灯します。

DSPモード

L R PRO LOGIC
SUBWFR DSP
THEATER

33 ページへ続く

シアターサラウンドを調節したいときは、次の手順に進みます。

3 サウンドボタンを押す

サウンド

数字ボタンで音声が調節できるようになります。

4 テストトーンボタンを押してスピーカーの出力バランスを確認する

テストトーン 10

TEST L VOL 23

「TEST L」が点滅し、下記の順で各スピーカーからテストトーンが出ます。

TEST L（左フロントスピーカー）→ TEST C（センタースピーカー）→ TEST R（右フロントスピーカー）→ TEST RS（右リアスピーカー）→ TEST LS（左リアスピーカー）

5 スピーカーの出力レベルを調節する

「−10」〜「+10」の範囲で調節できます。
フロントスピーカーと同じ出力レベルで聞こえるよう調節します。

センター+/−ボタンを押してセンタースピーカーの出力レベルを調節する。

− センター + 3 4

CENTER 0 VOL 23

CENTER −10 ←→ CENTER +10

リア・左+/−ボタンを押して左リアスピーカーの出力レベルを調節する。

− リア・左 + 5 6

REAR L 0 VOL 23

REAR L −10 ←→ REAR L +10

リア・右+/−ボタンを押して右リアスピーカーの出力レベルを調節する。

− リア・右 + 7 8 決定

REAR R 0 VOL 23

REAR R −10 ←→ REAR R +10

お買い上げ時は、すべてのスピーカーの出力レベルが「0」に設定されています。

6 テストトーンボタンを押してテストトーンを止める

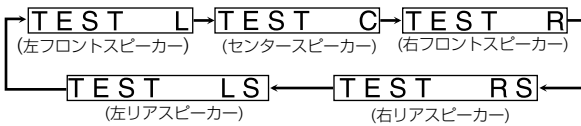
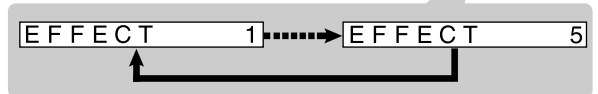
テストトーン 10

OFF VOL 23

7 エフェクトボタンを押してエフェクトレベルを調節する

エフェクト

EFFECT 3 VOL 23

EFFECT 1 → EFFECT 5

「1」〜「5」の範囲で調節できます。

・数字が大きくなるほど、DSPの効果が大きくなります。通常は「3」（お買い上げ時の設定）に設定します。

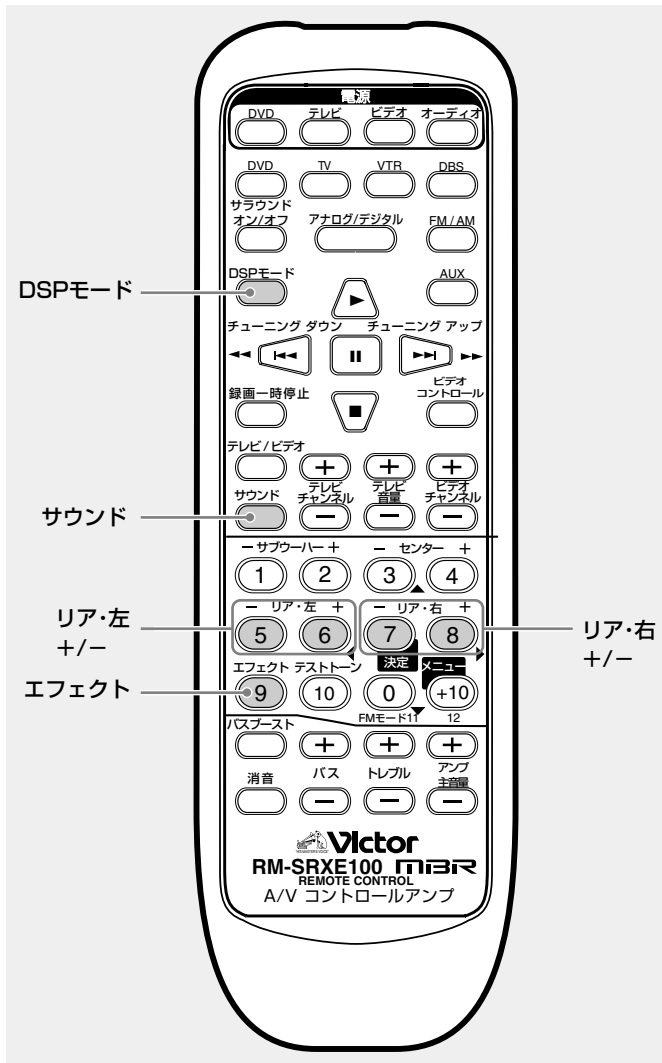
シアターサラウンドを解除するには

DSPモードボタンをくり返し押して「STEREO」を表示させる。
表示窓のPRO LOGIC表示とDSP表示が消えます。

DAPを使う(リモコン)

DAPは他のDSPと同時に使うことはできません。DAPを選ぶと他のDSPは解除されます。

- ソース(音源)ごとに設定します。
- リアスピーカーを「NO」に設定(18 ページ)しているときは、DAPは選べません。
- 本体前面のボタンを使って操作するときは、38 ページをご覧ください。

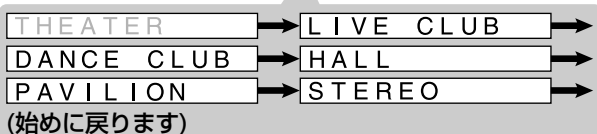
DSPモード
サウンド
リア・左 +/−
エフェクト
リア・右 +/−

1 ソース機器選択ボタンで、ソース(音源)を選び、アナログ録音またはリニアPCMで録音されたソフトを再生する

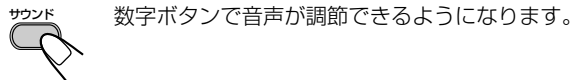
2 DSPモードボタンを押してDAPのいずれかを表示させる

表示窓のDSP表示が点灯します。

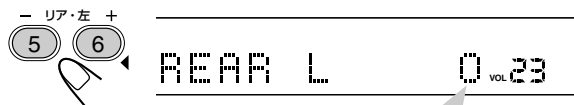
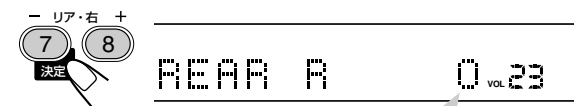
LIVE CLUB VOL 23

THEATER → LIVE CLUB → DANCE CLUB → HALL → PAVILION → STEREO →
(始めに戻ります)

DAPを調節したいときは、次の手順に進みます。

3 サウンドボタンを押す

数字ボタンで音声が調節できるようになります。

4 リアスピーカーの出力レベルを調節する

「−10」〜「+10」の範囲で調節できます(お買い上げ時は「0」に設定されています)。
フロントスピーカーと同じレベルで聞こえるように調節します。

リア・左+/−ボタンを押して左リアスピーカーの出力レベルを調節する。

REAR L 0 VOL 23

REAR L −10 ↔ REAR L +10

リア・右+/−ボタンを押して右リアスピーカーの出力レベルを調節する。

REAR R 0 VOL 23

REAR R −10 ↔ REAR R +10

5 エフェクトボタンを押してエフェクトレベルを調節する

EFFECT 3 VOL 23

EFFECT 1 → EFFECT 5

「1」〜「5」の範囲で調節できます。

- 数字が大きくなるほど、DSPの効果が大きくなります。通常は「3」(お買い上げ時の設定)に設定します。

DAPを解除するには

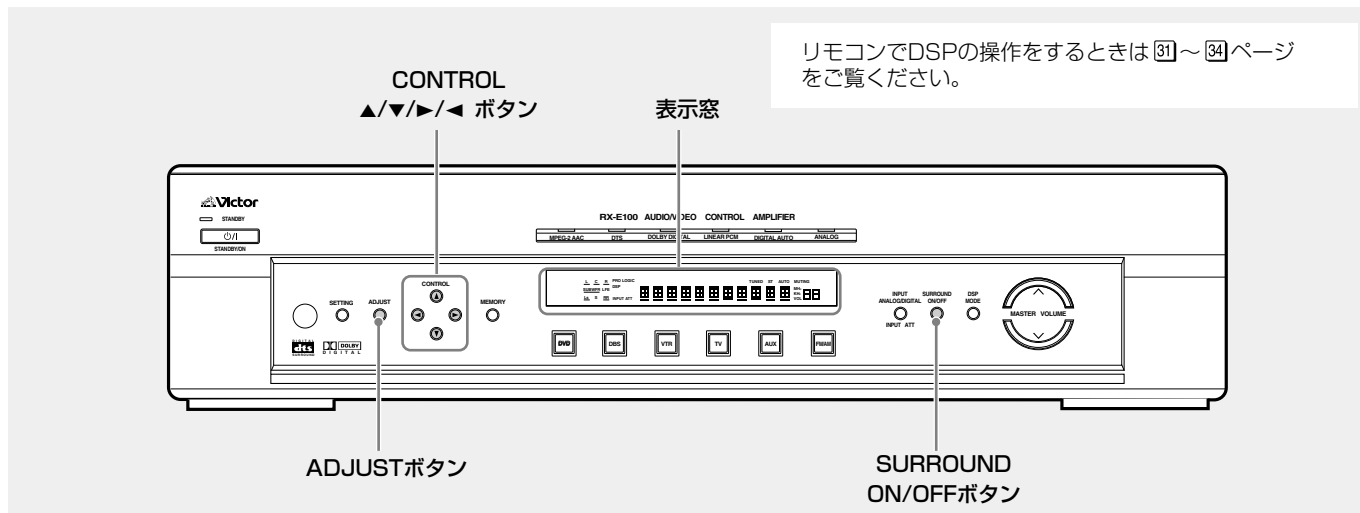
DSPモードボタンをくり返し押して「STEREO」を表示させる。
表示窓のDSP表示が消えます。

サラウンドを使う(本体)

サラウンドは他のDSPと同時に使うことはできません。サラウンドを選ぶと他のDSPは解除されます。
本体のボタンで操作するときは、テストトーンは出力できません。ソフトの再生音を聞きながら、調節します。

・ソース(音源)ごとに設定します。

リモコンでDSPの操作をするときは 31～34ページをご覧ください。

CONTROL ▲/▼/►/◄ ボタン
表示窓
ADJUSTボタン
SURROUND ON/OFFボタン

設定する前に…

・スピーカーサイズの設定を行ってください。(18～19ページ)
・センタースピーカーを「NO」に設定(18ページ)していると、センタースピーカーの出力レベルは調節できません。
・リアスピーカーを「NO」に設定(18ページ)していると、リアスピーカーの出力レベルは調節できません。

1 ソース機器選択ボタンで、ソース(音源)を選び、映像や音楽ソフトを再生する

オートサラウンドが「ON」になっているときは、マルチチャンネルのソフトを再生すると自動的にサラウンドが「ON(入)」になります。

2 SURROUND ON/OFFボタンを押してサラウンドを「ON(入)」にする

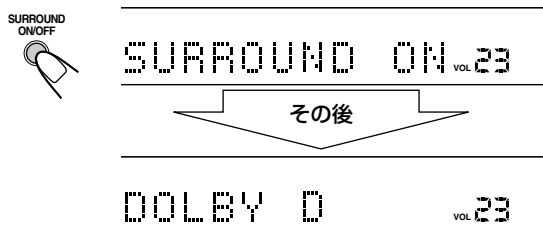
入力信号の種類によって、最適なサラウンド(「PRO LOGIC」、「DOLBY D」、「DTS」、または「AAC」)が自動的に選ばれ、表示されます。

・押すごとにサラウンドモードは「ON(入)/STEREO(切)」します。

SURROUND ON/OFF

SURROUND ON VOL 23

その後

DOLBY D VOL 23

例)ドルビーデジタルが選ばれたとき

ご注意

• アナログ音声を再生するときは、「SURROUND ON」は表示されず、SURROUND ON/OFFボタンを押すと、すぐに「PRO LOGIC」が選ばれ、表示されます。

サラウンドを調節したいときは、次の手順に進みます。

3 ADJUSTボタンを押す

ADJUST

CONTROLボタンが働くようになります。

4 CONTROL ▲ (または ▼)ボタンを押して出力レベルを調節するスピーカーを選ぶ

CONTROL

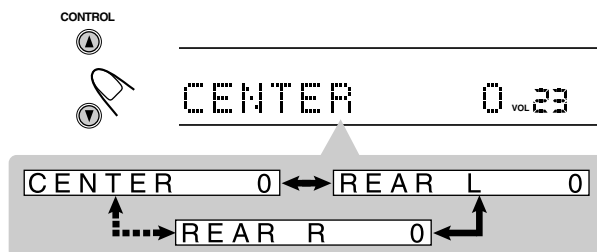
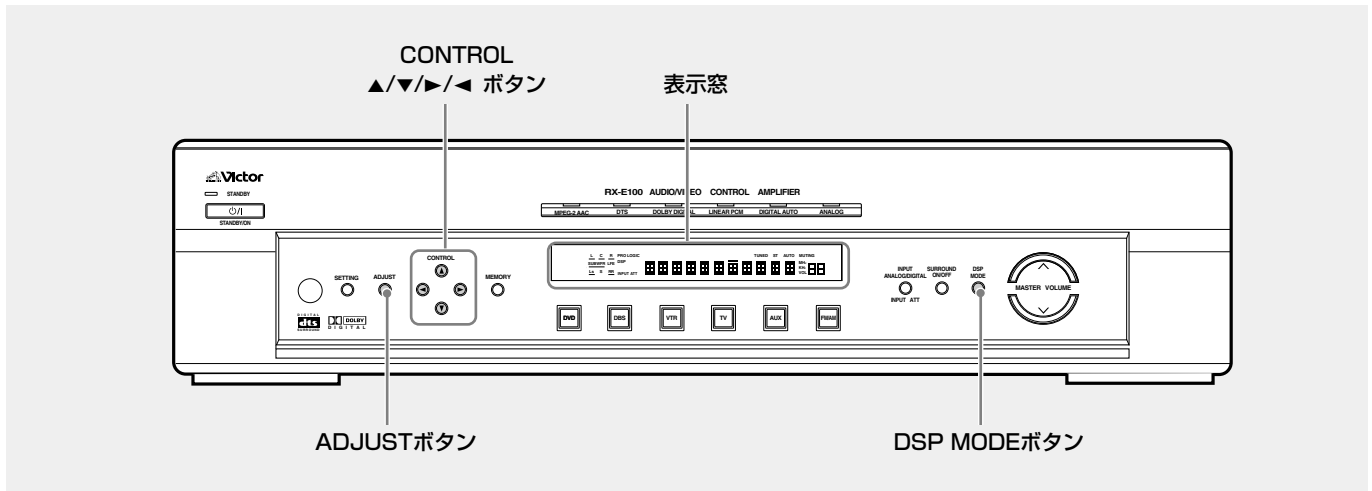
CENTER 0 VOL 23

CENTER 0 ↔ REAR L 0 → REAR R 0 → CENTER 0

CENTER	:センタースピーカーの出力レベルを調節するときに選びます。「−10」～「+10」の範囲で調節できます。
REAR L	:左リアスピーカーの出力レベルを調節するときに選びます。「−10」～「+10」の範囲で調節できます。
REAR R	:右リアスピーカーの出力レベルを調節するときに選びます。「−10」～「+10」の範囲で調節できます。

お買い上げ時は、すべてのスピーカー出力レベルが「0」に設定されています。

36ページへ続く

CONTROL ▲/▼/►/◄ ボタン
表示窓
ADJUSTボタン
DSP MODEボタン

5 CONTROL ► (または ◄)ボタンを押してスピーカーの出力レベルを調節する

フロントスピーカーと同じ出力レベルで聞こえるように設定してください。

CONTROL

CENTER 0 VOL 23

CENTER −10 ◄····► CENTER +10

例)センタースピーカーの出力レベルを調節するとき

6 手順4と5をくり返して他のスピーカーも調節する

サラウンドを解除するには

SURROUND ON/OFFボタンを押して「STEREO」を表示させる。

- マルチチャンネルのソフトを再生中にサラウンドモードを解除すると、すべての音声がミックスされてフロントスピーカー(とサブウーハー)から出ます。

ビクター・シアターサラウンドを使う（本体）

シアターサラウンドは他のDSPと同時に使うことはできません。シアターサラウンドを選ぶと他のDSPは解除されます。
本体のボタンで操作するときは、テストトーンは出力できません。ソフトの再生音を聞きながら、調節します。
また、手順ごとにリスニングポジションに戻って出力レベルを確かめてから調節することをお勧めします。

- ソース(音源)ごとに設定します。
- リアスピーカーを「NO」に設定(18ページ)しているときは、シアターサラウンドは選べません。

1 ソース機器選択ボタンで、ソース(音源)を選び、ドルビーサラウンドで録音された映像ソフトを再生する

2 DSPモードボタンを押して「THEATER」を表示させる

表示窓のPRO LOGIC表示とDSP表示が点灯します。

DSP MODE

L R PRO LOGIC SUBWFR DSP THEATER

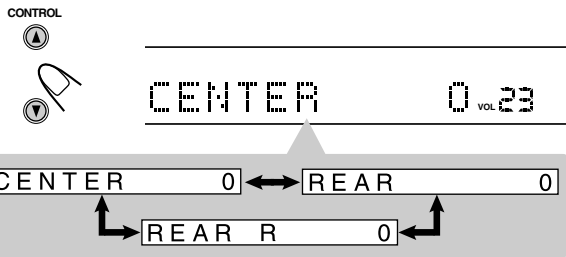
シアターサラウンドを調節したいときは、次の手順に進みます。

3 ADJUSTボタンを押す

ADJUST

CONTROLボタンが働くようになります。

37ページへ続く

4 CONTROL ▲（または ▼）ボタンを押して出力レベルを調節するスピーカーを選ぶ

CONTROL

CENTER 0 VOL 23

CENTER 0 ⟷ REAR 0
REAR R 0

CENTER	：センタースピーカーの出力レベルを調節するときに選びます。「－10」～「＋10」の範囲で調節できます。
REAR L	：左リアスピーカーの出力レベルを調節するときに選びます。「－10」～「＋10」の範囲で調節できます。
REAR R	：右リアスピーカーの出力レベルを調節するときに選びます。「－10」～「＋10」の範囲で調節できます。

お買い上げ時は、すべてのスピーカー出力レベルが「0」に設定されています。

5 CONTROL ►（または ◄）ボタンを押してスピーカーの出力レベルを調節する

フロントスピーカーと同じ出力レベルで聞こえるように調節します。

CONTROL

CENTER 0 VOL 23

CENTER －10 ⟷ CENTER ＋10

例）センタースピーカーの出力レベルを調節するとき

6 手順4と5をくり返して他のスピーカーの調節をする

7 CONTROL ▲（または ▼）ボタンを押して「EFFECT」*を表示させる。

CONTROL

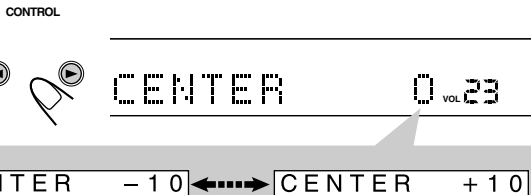
EFFECT 3 VOL 23

*お買い上げ時は「3」に設定されています。
既に、設定を変更されているときは、他の数値が表示されます。

8 CONTROL ►（または ◄）ボタンを押してエフェクトレベルを調節する

CONTROL

EFFECT 3 VOL 23

EFFECT 1 ⟷ EFFECT 5

「1」～「5」の範囲で調節できます。
・ 数字が大きくなるほど、DSPの効果が大きくなります。通常は「3」に設定します。

シアターサラウンドを解除するには

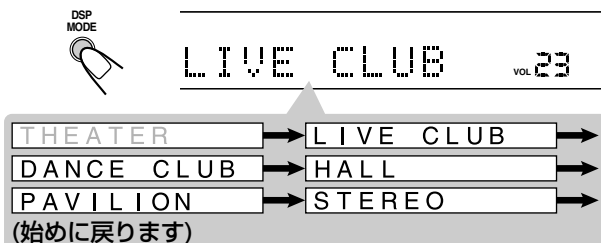
DSP MODEボタンをくり返し押して「STEREO」を表示させる。
表示窓のPRO LOGIC表示とDSP表示が消えます。

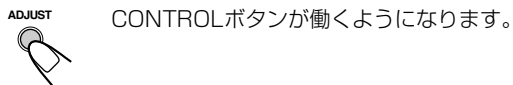
DAPを使う(本体)

DAPは他のDSPと同時に使うことはできません。DAPを選ぶと他のDSPは解除されます。

- ソース(音源)ごとに設定します。
- リアスピーカーを「NO」に設定(18ページ)しているときは、DAPは選べません。

1 ソース機器選択ボタンで、ソース(音源)を選び、アナログ録音またはリニアPCMで録音されたソフトを再生する

2 DSP MODEボタンを押してDAPのいずれかを表示させる

表示窓のDSP表示が点灯します。

DSP MODE

LIVE CLUB VOL 23

THEATER → LIVE CLUB → DANCE CLUB → HALL → PAVILION → STEREO →
(始めに戻ります)

DAPを調節したいときは、次の手順に進みます。

3 ADJUSTボタンを押す

ADJUST

CONTROLボタンが働くようになります。

4 CONTROL ▲(または ▼)ボタンを押して出力レベルを調節するスピーカーを選ぶ

CONTROL

REAR L 0 VOL 23

REAR L 0 ↔ REAR R 0

REAR L	左リアスピーカーの出力レベルを調節するときに選びます。「−10」〜「+10」の範囲で調節できます。
REAR R	右リアスピーカーの出力レベルを調節するときに選びます。「−10」〜「+10」の範囲で調節できます。

お買い上げ時は、すべてのスピーカー出力レベルが「0」に設定されています。

5 CONTROL ►(または ◄)ボタンを押してスピーカーの出力レベルを調節する

フロントスピーカーと同じレベルで聞こえるように調節します。

CONTROL

REAR L 0 VOL 23

REAR L −10 ↔ REAR L +10

例)左リアスピーカーの出力レベルを調節するとき

6 手順4と5をくり返して他のスピーカーの調節をする

7 CONTROL ▲(または ▼)ボタンを押して「EFFECT」*を表示させる

CONTROL

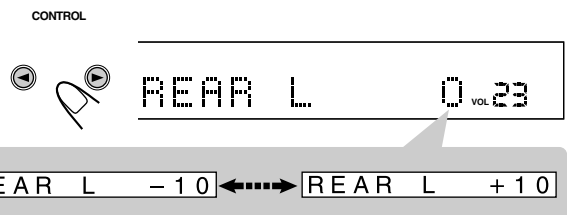
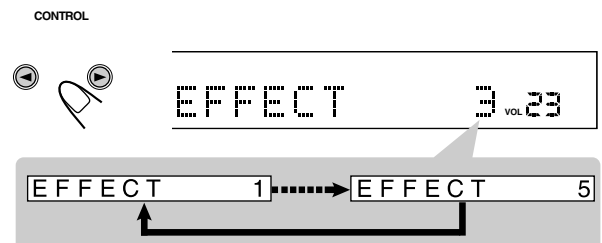
EFFECT 3 VOL 23

*お買い上げ時は「3」に設定されています。
既に、設定を変更されているときは、他の数値が表示されます。

8 CONTROL ►(または ◄)ボタンを押してエフェクトレベルを調節する

CONTROL

EFFECT 3 VOL 23

EFFECT 1 → EFFECT 5

「1」〜「5」の範囲で調節できます。

- 数字が大きくなるほど、DSPの効果が大きくなります。通常は「3」に設定します。

DAPを解除するには

DSP MODEボタンをくり返し押して「STEREO」を表示させます。
表示窓のDSP表示が消えます。

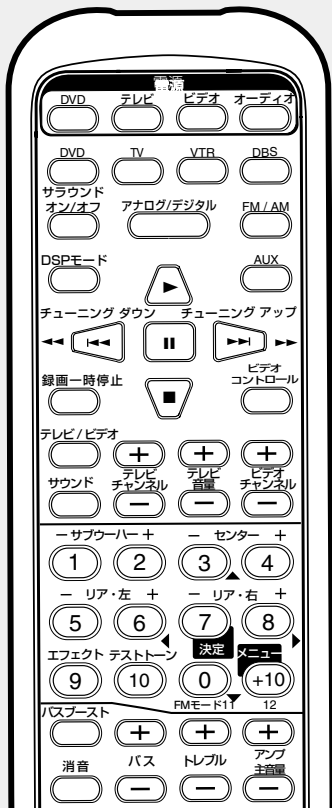
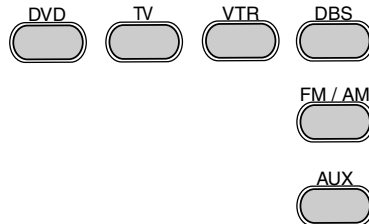
本機やビクター製の他の機器を操作する

本機のリモコンでビクター製の他の機器を操作するときは
- 操作する機器の取扱説明書もご覧ください。
- 操作するビデオ機器のリモコンコードを「A」にしてください。（リモコンコードを設定できる場合）
- リモコンは操作する機器のリモコン受光部に向けて操作してください。

❑ 電源を入れる
－電源（DVD、テレビ、ビデオ、オーディオ）ボタン

DVD電源	：DVDプレーヤーの電源を「入/切」します。
テレビ電源	：テレビの電源を「入/切」します。
ビデオ電源	：ビデオデッキの電源を「入/切」します。
オーディオ電源	：本機の電源を「入/切」します。

❑ 音量を調節する－アンプ主音量＋/－ボタン

音量を調節します。

❑ ソース機器を選ぶ
－ソース機器選択ボタン

DVD*	：DVDプレーヤーを選びます。
TV*	：テレビを選びます。
VTR*	：ビデオデッキを選びます。
DBS	：BSデジタルチューナーまたはデジタルCSチューナーを選びます。
FM/AM*	：FM放送またはAM放送を選びます。
AUX	：AUX端子に接続された外部機器を選びます。

* これらのソース（音源）選択ボタンを押すと、ソース（音源）が切り換わるとともに、リモコンの数字ボタンやオーディオ／ビデオ操作ボタンの機能も切り換わり、選んだソース機器を操作できるようになります（リモコンの数字ボタンは、ビデオデッキの操作には使えません）。

❑ 音声入力を選ぶ－アナログ/デジタルボタン

音声入力（デジタルまたはアナログ）を切り換えます。

❑ 一時的に音声を消す－消音ボタン

一時的に音声を消したり、戻したりします。

❑ DSPを使う－サラウンドオン/オフ、DSPモードボタン

サラウンドオン/オフ
：サラウンドモードを「入/切」します。

DSPモード
：DSP（シアターサラウンドまたはDAP）を選びます。ボタンを押すごとにDSPが切り換わります。

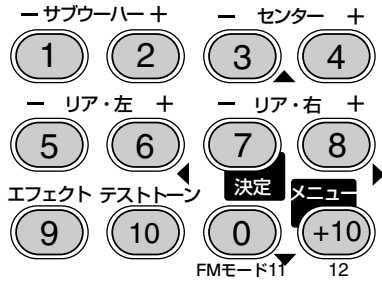
❑ 音声を調節する－サウンドボタン

数字ボタンで以下の音声の調節ができるようにします。
- スピーカー出力レベルの調節
- エフェクトレベルの調節
- テストトーンの出力

❑ 低音を強調する－バスブーストボタン

バスブーストを「入/切」します。

❑ 音質を調節する－バス＋/－、トレブル＋/－ボタン

❑ 音声の調節をしたり、ソース機器を操作する
－数字ボタン

本機の操作

■ FM/AM放送の操作
ソース機器選択ボタンのFM/AMボタンを押した後で、次のボタン操作ができます。

1～10、+10	:プリセットされた放送局を選びます。
FMモード	:FM受信モードを切り換えます。

例) FM放送局やAM放送局を選ぶとき(プリセット選局)

・プリセット番号「5」を選ぶには:
5 を押す。
・プリセット番号「15」を選ぶには:
+10 → 5 と押す。
・プリセット番号「20」を選ぶには:
+10 → 10 と押す。
・プリセット番号「30」を選ぶには:
+10 → +10 → 10 と押す。

■ 音声調節
サウンドボタンを押した後で、次のボタン操作ができます。

サブウーハー+/－	:サブウーハーの出力レベルを調節します。
センター+/－	:センタースピーカーの出力レベルを調節します。
リア・左+/－	:左リアスピーカーの出力レベルを調節します。
リア・右+/－	:右リアスピーカーの出力レベルを調節します。
エフェクト	:DSPの効果を調節します。
テストトーン	:テストトーンを「入/切」します。

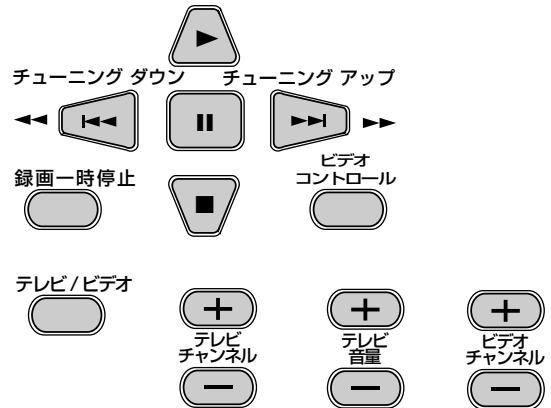
他のビクター製品の操作

■ DVDのメニュー操作
ソース機器選択ボタンのDVDボタンを押した後で、次のボタン操作ができます。

メニュー	:メニュー画面を表示します。
決定	:選んだ項目を決定します。
▲/▼/◄/►	:メニューの項目を選びます。

■ テレビのチャンネル選択
ソース機器選択ボタンのTVボタンを押した後で、次のボタン操作ができます。

1～10、11(0)、12(+10)	:テレビのチャンネルを選びます。

❑ ソース機器を操作する
－オーディオ/ビデオ機器操作ボタン

本機の操作

■ FM/AM放送の操作
ソース機器選択ボタンのFM/AMボタンを押した後で、次のボタン操作ができます。

チューニングアップ/ダウン	:放送局を選びます。

他のビクター製品の操作

■ DVDプレーヤーの操作
ソース機器選択ボタンのDVDボタンを押した後で、次のボタン操作ができます。

►	:再生します。
■	:停止します。
⏸	:一時停止します。
►►⏐	:次のチャプターの頭出しをします。
⏐◄◄	:チャプター(または前のチャプター)の頭に戻ります。

■ ビデオデッキの操作

ビデオチャンネル+/－	:チャンネルを切り換えます。

ソース機器選択ボタンのVTRボタンやビデオコントロールボタンを押した後で、次のボタン操作ができます。

►	:再生します。
■	:停止します。
⏸	:再生を一時停止します。
►►	:早送りをします。
◄◄	:巻き戻しをします。
録画一時停止	:録画を一時停止します(レックポーズ)。再び録画を始めるときは、►を押します。

■ テレビの操作

テレビ/ビデオ	:ビデオ入力とテレビチューナーを切り換えます。
テレビチャンネル+/－	:チャンネルを切り換えます。
テレビ音量+/－	:音量を調節します。

他メーカーの機器を操作する

本機のリモコンは、ビクター以外のメーカーの機器も操作できます。

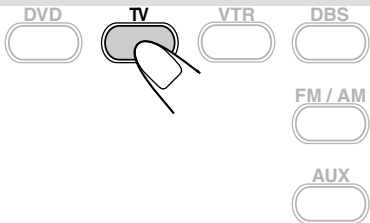
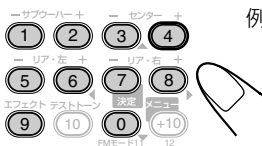
❑ 他のメーカーのテレビを操作する

本機のリモコンで13社のテレビが操作できます。お買い上げ時はビクター製テレビが操作できるように設定されています。他社のテレビを操作できるようにするには、次の設定を行ってください。

設定する前に…

テレビの電源を切っておきます。

1 テレビ電源ボタンを押したまま手順2〜3を行う

2 ソース機器選択ボタンのTVボタンを押す

3 数字ボタンでメーカー番号(2ケタ)を選ぶ

例：お手持ちのテレビが松下製(02)のときは、数字ボタンを0→2の順に押します。
アイワ製(14)のときは、数字ボタンを1→4の順に押します。

メーカー名	メーカー番号	メーカー名	メーカー番号
ビクター	01	シャープ	10
松下	02、03	パイオニア	11
三菱	04	NEC	12
ソニー	05	フナイ	13、16、17
日立	06	アイワ	14
東芝	07	富士通	15
三洋	08、09		

4 押し続けたテレビ電源ボタンを離す

5 設定を確認する

リモコンのテレビ電源ボタンを押して、テレビの電源が「入／切」できれば設定は終了です。

ご注意

- うまく設定ができないときは、同じメーカーの別のメーカー番号を入力してみてください。
- リモコンの電池をはずしたり、交換したときは、お買い上げ時の設定に戻ることがあります。使用したときにうまく働かないときは、もう一度手順1からメーカー番号を設定し直してください。

テレビ操作に使えるボタン

テレビ電源	：電源を「入/切」します。
テレビ/ビデオ	：ビデオ入力とテレビチューナーを切り換えます。
テレビチャンネル＋/－	：チャンネルを切り換えます。
テレビ音量＋/－	：音量を調節します。

ソース機器選択ボタンのＴＶボタンを押した後で、次のボタン操作ができます。

1〜10、11(0)、12(＋10)	：チャンネルを選びます。

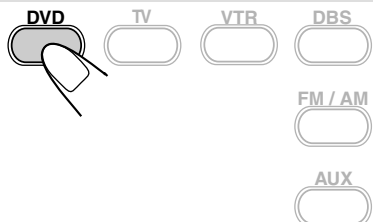
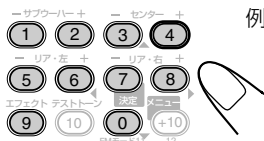
❑ 他のメーカーのDVDプレーヤーを操作する

本機のリモコンで8社のDVDプレーヤーが操作できます。お買い上げ時はビクター製DVDプレーヤーが操作できるように設定されています。他社のDVDプレーヤーを操作できるようにするには、次の設定を行ってください。

設定する前に…

DVDプレーヤーの電源を切っておきます。

1 DVD電源ボタンを押したまま手順2〜3を行う

2 ソース機器選択ボタンのDVDボタンを押す

3 数字ボタンでメーカー番号(2ケタ)を選ぶ

例: お手持ちのDVDプレーヤーが松下製(04)のときは、数字ボタンを0→4の順に押します。

メーカー名	メーカー番号	メーカー名	メーカー番号
ビクター	01	シャープ	05
松下	02	パイオニア	06
ソニー	03	デノン	07
東芝	04	フィリップス	08

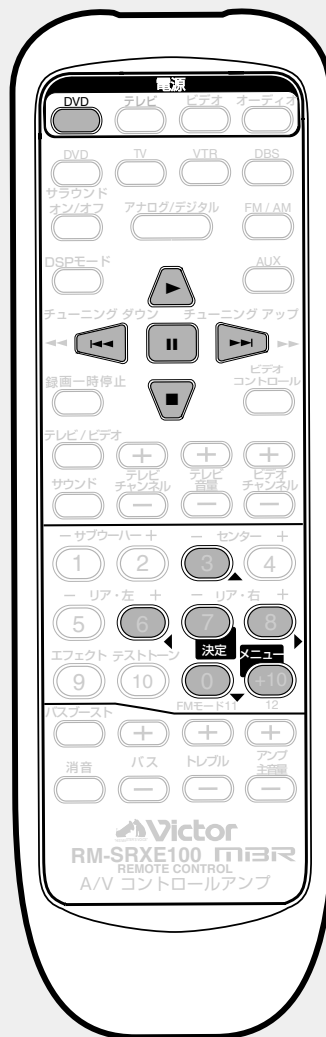
4 押し続けたDVD電源ボタンを離す

5 設定を確認する

リモコンのDVD電源ボタンを押して、DVDプレーヤーの電源が「入/切」できれば設定は終了です。

ご注意

- リモコンの電池をはずしたり、交換したときは、お買い上げ時の設定に戻ることがあります。使用したときにうまく働かないときは、もう一度手順1からメーカー番号を設定し直してください。

DVDプレーヤー操作に使えるボタン

DVD電源：電源を「入/切」します。

ソース機器選択ボタンのＤＶＤボタンを押した後で、次のボタン操作ができます。

ボタン	操作
►	再生します。
■	停止します。
❚❚	一時停止します。
►►❘	次のチャプターの頭出しをします。
❘◄◄	チャプター(または前のチャプター)の頭に戻ります。
メニュー	メニュー画面を表示します。
決定	選んだ項目を決定します。
▲ / ▼ / ◄ / ►	メニューの項目を選びます。

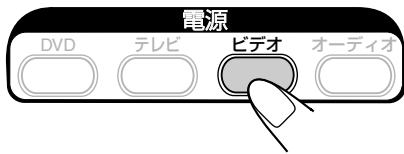
❏ 他のメーカーのビデオデッキを操作する

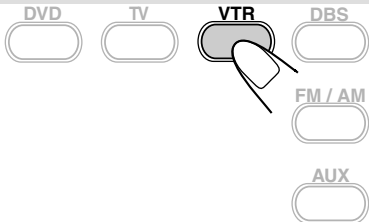
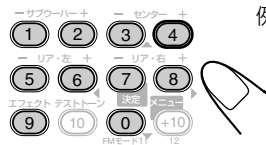
本機のリモコンで14社のビデオデッキが操作できます。お買い上げ時はビクター製ビデオデッキが操作できるように設定されています。他社のビデオデッキを操作できるようにするには、次の設定を行ってください。

設定する前に…

ビデオデッキの電源を切っておきます。

1 ビデオ電源ボタンを押したまま手順2〜3を行う

電源
DVD テレビ ビデオ オーディオ

2 ソース機器選択ボタンのVTRボタンを押す

DVD TV VTR DBS FM / AM AUX

3 数字ボタンでメーカー番号(2ケタ)を選ぶ

例：お手持ちのビデオデッキが松下製(04)のときは、数字ボタンを0→4の順に押します。

メーカー名	メーカー番号	メーカー名	メーカー番号
ビクター	01、02、03	シャープ	15、16
松下	04、05	パイオニア	17
三菱	06	NEC	18
ソニー	07、08、09	フナイ	19、20、21、22
日立	10	アイワ	23
東芝	11	富士通	24
三洋	12、13、14	フィリップス	25

4 押し続けたビデオ電源ボタンを離す

5 設定を確認する

電源
DVD テレビ ビデオ オーディオ

リモコンのビデオ電源ボタンを押して、ビデオデッキの電源が「入／切」できれば設定は終了です。

ご注意

- うまく設定ができないときは、同じメーカーの別のメーカー番号を入力してみてください。
- リモコンの電池をはずしたり、交換したときは、お買い上げ時の設定に戻ることがあります。使用したときにうまく働かないときは、もう一度手順1からメーカー番号を設定し直してください。

ビデオデッキ操作に使えるボタン

RM-SRXE100 REMOTE CONTROL A/V コントロールアンプ

ビデオ電源	電源を「入/切」します。
ビデオチャンネル+/−	チャンネルを切り換えます。

ソース機器選択ボタンのVTRボタンまたは ビデオコントロールボタンを押した後で、次のボタン操作ができます。

►	再生します。
■	停止します。
❚❚	再生を一時停止します。
►►	早送りをします。
◄◄	巻き戻しをします。
録画一時停止	録画を一時停止します(レックポーズ)。再び録画を始めるときは、► を押します。

故障かな？と思う前に

修理に出す前に、下記の表を参考にして、もう一度お確かめください。(　)内の数字は参照ページです。

症　状	原　因	処　置
電源が入らない。表示窓が点灯しない。	電源コードがはずれている。	電源コードを家庭用コンセントに差し込む。(13ページ)
音が出ない。	スピーカーコードがはずれている。	接続を確認する。(9ページ)
	間違ったソース(音源)が選ばれている。	正しいソース(音源)を選ぶ。(14ページ)
	消音になっている。	消音ボタンを押して、消音を解除する。(15ページ)
	間違った音声入力(アナログまたはデジタル)が選ばれている。	正しい音声入力(アナログまたはデジタル)を選ぶ。(16ページ)
	機器が正しく接続されていない。	接続を確認する。(10～12ページ)
片方のスピーカーからしか音が出ない。	スピーカーコードが正しく接続されていない。	接続を確認する。(9ページ)
	スピーカーの左右のバランスが合っていない。	バランスを調節する。(23ページ)
FM放送を受信中に連続的に雑音が入る。	受信している電波が弱すぎる。	FM屋外アンテナを接続するか、お買い上げの販売店に問い合わせる。(8ページ)
	放送局から遠い。	別の放送局を選ぶ。
	アンテナが正しく接続されていない。	接続を確認する。(8ページ)
AM放送を受信中にときどき雑音が入る。	自動車などからのイグニッションノイズの影響を受けている。	アンテナを道路から遠ざける。
「OVERLOAD」が表示窓で点滅する。	音量(ボリューム)が大きいため、スピーカーに負荷がかかりすぎている。	1. ⏻/I ボタンを押して本機の電源を切る。 2. 再生ソースを止める。 3. ⏻/I ボタンを押して本機の電源を入れ、音量を調節する。
	スピーカー端子がショートしたため、アンプ部に負荷がかかりすぎている。	1. ⏻/I ボタンを押して本機の電源を切る。 2. スピーカーが正しく接続されているかどうか確かめる。 3. もう一度 ⏻/I ボタンを押して本機の電源を入れる。 スピーカー端子がショートしていない場合は、お買い上げの販売店にに問い合わせる。
リモコンが意図しない動作をする。	リモコンが本機または接続した機器を操作できるモードになっていない。	先にサウンドボタンやソース機器選択ボタンを押してから、操作する。(39～43ページ)
リモコンで操作できない。	リモコン受光部との間に障害物がある。	障害物を取り除く。
	電池が消耗している。	電池を交換する。
	入力したメーカー番号が間違っている。	正しいメーカー番号(2ケタ)を入力し直す。

保証とアフターサービス

保　証　書（別添）

保証書は、お買い上げの販売店よりお受け取りください。「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、記載内容をよくお読みの後、大切に保管しておいてください。

保　証　期　間

お買い上げの日から１年間

補修用性能部品の最低保有期間

AVコントロールアンプの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年です。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご相談やご不明な点は

修理に関するご相談やご不明な点は、**お買い上げの販売店**または46ページの**「ビクターサービス窓口案内」**をご覧のうえ最寄りのサービス窓口にお問い合わせください。

修理を依頼されるときは　出張修理

44ページの**「故障かな？と思う前に」**に従ってお調べください。それでもなお異常のあるときは、使用を中止し、**お買い上げの販売店**に修理をご依頼ください。このとき不具合の発生したディスクなどのメディアも一緒にご用意ください。

保　証　期　間　中　は

修理に際しましては保証書をご提示ください。
保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合には、お客様のご要望により修理させていただきます。

ご連絡していただきたい内容

品　名	AVコントロールアンプ
型　名	RX-E100
お買い上げ日	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご　住　所	付近の目印等も併せてお知らせください
お　名　前	
電話番号	
訪問ご希望日	

便利メモ	お買い上げ店名	☎（　）　－

修　理　料　金　の　仕　組　み

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

＋

部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

＋

出張料	製品のある場所へ技術者を派遣するための費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

別売アクセサリー

- サテライトスピーカーシステム…… SP-X100（5本1組）
- パワードサブウーハー…………… SP-PW100
- スピーカーシステム
  - （フロント/リア用）………… SX-L3
  - （センター用）……………… SX-LC3
- 光デジタルケーブル………………XN-110SA（長さ1m）
- 同軸デジタルケーブル（ピンプラグ）‥CN-D110E（長さ1m）
- S映像ケーブル……………………VC-S110E（長さ1m）
- 映像ケーブル………………………VX-110E（長さ1m）
- RCAピンプラグコード……………CN-510E（長さ1m）
- 整合器………………………………VZ-71A

■別売りアクセサリーはお買い上げの販売店でお求めください。

ビクターサービス窓口案内（ビクターサービスエンジニアリング株式会社）

ビクター製品のアフターサービスはお買い上げの販売店へご相談ください

ご転居等で保証書記載のお買い上げ販売店にアフターサービスをご依頼になれない場合は、最寄りの「ご相談窓口」にご相談ください。

都府県名	窓口名	TEL	〒	所在地
北海道				
北海道	札幌S.C.	(011)898-1180	004-0005	札幌市厚別区厚別東5条1-2-29
	旭川S.C.	(0166)61-3659	070-8012	旭川市神居二条3-2-15
	北見S.S.	(0157)25-8557	090-0037	北見市山下町4-7-19
	釧路S.S.	(0154)24-0797	080-0005	釧路市松浦町3番3号
	帯広S.S.	(0155)24-4493	080-0806	帯広市東六条南12-11
	函館S.S.	(0138)52-5324	040-0001	函館市五稜郭町4-16函館あおば生命ビル1F
東北				
青森	青森S.C.	(017)723-2261	030-0844	青森市桂木4-6-17
	八戸S.S.	(0178)44-4521	031-0804	八戸市青葉2-21-2
	弘前S.S.	(0172)28-0165	036-8084	弘前市高田1-13-1
岩手	盛岡S.C.	(019)637-0121	020-0835	盛岡市津志田9地割24-1
	水沢S.S.	(0197)22-2773	023-0815	水沢市天文台通り3-12
秋田	秋田S.C.	(018)824-3189	010-0953	秋田市山王中園町4-1
	大館S.S.	(0186)43-0980	017-0874	大館市美園町5-6
	横手S.S.	(0182)32-8873	013-0064	横手市赤坂字大道向3-6
宮城	仙台S.C.	(022)287-0151	984-0011	仙台市若林区六丁の目西町7-13
	石巻S.S.	(0225)94-7711	986-0853	石巻市門脇字四番谷地8-18
山形	山形S.C.	(023)642-0279	990-2412	山形市松山3-12-18
	酒田S.S.	(0234)26-7145	998-0842	酒田市亀ヶ崎6-6-1
福島	郡山S.C.	(024)952-6331	963-0205	郡山市堤1-3
	いわきS.S.	(0246)28-4991	970-8034	いわき市平上荒川字桜町19-4
	会津若松S.S.	(0242)38-1355	965-0831	会津若松市表町1-44ハイツシンフォニー101
	福島S.S.	(024)553-9437	960-0103	福島市本内字南原26-1
関東・甲信越				
新潟	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(025)241-4003	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	新潟S.C.	(025)242-3431	950-0084	新潟市明石1-2-19
	長岡S.S.	(0258)24-8391	940-0012	長岡市下々条2-1366-1
	上越S.S.	(0255)45-1734	942-0081	上越市五智1-11
長野	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(026)221-7607	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	長野S.C.	(026)221-6583	380-0913	長野市川合新田962-1
	松本S.S.	(0263)25-9165	390-0828	松本市庄内2-4-21
群馬	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(027)255-5982	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	前橋S.C	(027)255-5921	371-0854	前橋市大渡町1-19-1
栃木	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(028)635-2938	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	宇都宮S.C	(028)638-1639	321-0953	宇都宮市東宿郷3-5-22
茨城	土浦S.C.	(0298)21-8756	300-0813	土浦市富士崎1-10-1
	水戸S.S.	(029)246-1560	310-0836	水戸市元吉田町1077
山梨	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(055)227-5773	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	甲府S.S.	(055)237-4016	400-0864	甲府市湯田2-11-5
千葉	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	千葉S.C.	(043)246-2588	261-0001	千葉市美浜区幸町2-1-1
	柏S.C.	(0471)75-4322	277-0863	柏市豊四季512-10-67
	浦安S.S.	(047)353-6189	279-0001	浦安市当代島2-13-27
東京	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	本郷S.C.	(03)5684-8254	113-0033	文京区本郷3-14-7 ビクター本郷ビル1F
	秋葉原S.S	(03)3251-2128	101-0021	千代田区外神田1-6-6
	練馬S.C.	(03)3993-7520	176-0014	練馬区豊玉南1-19-1
	大田S.C.	(03)3727-9385	145-0062	大田区北千束2-20-6
	八王子S.C.	(0426)46-6914	192-0045	八王子市大和田町2-9-6
	【業務用機器専門】のご相談窓口			
	首都圏メンテナンスセンター	(03)3874-5231	110-0003	台東区根岸5-4-3
埼玉	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	大宮S.C.	(048)654-5241	330-0037	さいたま市東大成町2-658-1
	熊谷S.S.	(048)553-5105	361-0057	行田市城西2-7-39ツインハイツ石山B
神奈川	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	横浜S.C.	(045)651-0403	231-0028	横浜市中区翁町1-3-1
	川崎S.C.	(044)975-1879	216-0024	川崎市宮前区南平台3-2（第2石原ビル）
	平塚S.C.	(0463)36-2160	254-0065	平塚市南原2-4-5
	相模原S.C	(042)776-2052	229-0004	相模原市古淵3-7-4

都府県名	窓口名	TEL	〒	所在地
東海・北陸				
静岡	静岡S.C.	(054)282-4141	422-8006	静岡市曲金6-5-28
	沼津S.S.	(0559)22-1557	410-0041	沼津市筒井町6-5
	浜松S.S.	(053)421-3441	435-0041	浜松市北島町785
愛知	名古屋S.C.	(0568)25-3235	481-0041	西春日井郡西春町九之坪鴨田121-1
	三河S.C.	(0564)26-1005	444-2133	岡崎市井ノ口町字河原西31-1
	豊橋S.S.	(0532)64-0815	440-0853	豊橋市佐藤5-19-1
岐阜	岐阜S.S.	(058)274-1947	500-8367	岐阜市宇佐南3-1-28
三重	三重S.S.	(0593)52-0841	510-0076	四日市市堀木2-15-2
	津S.S.	(059)229-7780	514-0815	津市大字藤方485-18
富山	富山S.C.	(076)425-2397	939-8211	富山市二口町四丁目1-3
石川	金沢S.C.	(076)269-4821	921-8062	金沢市新保本四丁目65-17
福井	福井S.S.	(0776)53-6916	910-0843	福井市西開発3-211
近畿				
滋賀	滋賀S.S.	(077)582-5812	524-0033	守山市浮気町268
京都	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	京都S.C.	(075)644-0247	612-8401	京都市伏見区深草下川原町31-1
京都北部	福知山S.S.	(0773)22-8664	620-0059	福知山市厚東町145-2
奈良	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	奈良S.S.	(0744)24-6271	634-0007	橿原市葛本町834-2
大阪	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	大阪S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	大阪南S.C.	(06)6768-5489	543-0028	大阪市天王寺区小橋町10-16
	堺S.C.	(0722)54-2881	591-8032	堺市百舌鳥梅町3丁目21-2 伊助ハイツ
	【業務用機器専門】のご相談窓口			
	大阪メンテナンスセンター	(06)6304-6715	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
和歌山	和歌山S.S.	(073)472-6799	640-8323	和歌山市太田430-8
	田辺S.S.	(0739)22-9976	646-0031	田辺市湊1581-12
兵庫中東部	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	神戸S.C.	(078)252-0562	651-0086	神戸市中央区磯上通3-2-16
兵庫西部	姫路S.S.	(0792)34-3833	670-0975	姫路市中地南町11-1
中国				
岡山	岡山S.C.	(086)243-1566	700-0927	岡山市西古松西町8-23
広島	広島S.C.	(082)243-9839	730-0825	広島市中区光南3-9-17
	福山S.S.	(0849)31-6984	721-0973	福山市南蔵王町3-5-15
山口	山口S.C.	(083)973-3708	754-0022	吉敷郡小郡町花園町5-28
	徳山S.S.	(0834)27-1331	745-0042	徳山市野上町2-35
	下関S.S.	(0832)51-1040	751-0852	下関市熊野町2-14-23
島根	山陰ビクター販売（株）サービスセンター（松江・米子担当）	(0852)31-8900	690-0823	松江市学園1-16-39
	出雲営業所サービス係	(0853)21-4611	693-0001	出雲市今市町854
	浜田営業所サービス係	(0855)22-1584	697-0023	浜田市長沢町671-1
鳥取	鳥取営業所サービス係	(0857)23-2151	680-0911	鳥取市千代水1丁目22-1
四国				
香川	高松S.C.	(087)866-1200	761-8057	高松市田村町205-1
徳島	徳島S.C.	(088)622-7387	770-8052	徳島市沖浜2-37
高知	高知S.S.	(088)882-0546	780-8122	高知市高須新町4-143
愛媛	松山S.C.	(089)923-0372	791-8015	松山市中央1-4-12
	宇和島S.S.	(0895)20-1018	798-0087	宇和島市坂下津甲407-40
九州・沖縄				
福岡	福岡S.C.	(092)-431-1261	812-0011	福岡市博多区博多駅前4-16-1
	久留米S.S	(0942)-39-3495	830-0038	久留米市西町字神浦1-1192
	北九州S.C.	(093)921-3981	802-0065	北九州市小倉北区三萩野2-9-3
長崎	長崎S.C.	(095)862-5522	852-8021	長崎市城山町9-13
	佐世保S.S	(0956)33-5568	857-1166	佐世保市木風町1467-2
大分	大分S.S.	(097)543-1422	870-0882	大分市大道町4-1-2
熊本	熊本S.C.	(096)353-4536	861-4101	熊本市近見町8-1-10
宮崎	宮崎S.S.	(0985)24-5401	880-0032	宮崎市霧島町3-59
	延岡S.S	(0982)35-7707	882-0857	延岡市惣領町24-3
鹿児島	鹿児島S.C.	(099)282-8818	890-0034	鹿児島市田上七丁目9-8
沖縄	沖縄S.C.	(098)898-3631	901-2224	沖縄県宜野湾市真志喜1-13-16

所在地、電話番号が変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。　0501

●略号について　S.C.はサービスセンターの略称です。
S.S.はサービスステーションの略称です。

■ リニアPCM(ピーシーエム)音声

アナログ音声信号をデジタル信号に変換して扱う方式の一つで、変換に際して圧縮処理を全くしない音声信号のことです。

■ LFE(Low Frequency Effect)(エルエフイー ロー フリケンシー エフェクト)

ドルビーデジタルやDTSの低周波効果音のことです。

■ サラウンド

視聴者の周囲にスピーカーを複数配置し、臨場感あふれる立体音場を創り出すことをさします。

■ ドルビーサラウンド

ドルビーサラウンド方式では、フロント左右、センター、リア(モノラル)の4ch音声を2chで記録しています。
再生時にマトリクス回路(ドルビープロロジックデコーダー)を使い、ドルビーサラウンド方式で記録された2ch音声から4ch音声を再生します。
これにより、立体感·包囲感のあるサラウンドをお楽しみいただけます。

■ ドルビーデジタル

5.1chの音声トラックを持つ新しいサラウンド方式です。
フロント側3ch(レフト、ライト、センター)に加え、リア出力もステレオ化し、フロント側と同じ周波数帯域を持たせています。さらに独立したサブウーハー(5.1chの0.1ch部分)信号を記録しています。
記録の際はあらかじめ5.1chが分離された状態で記録されており、チャンネルセパレーションも良好です。さらにすべての音がデジタル信号で処理されるので、ノイズを抑えることができます。

■ DTS (Digital Theater System)サラウンド(ディーティーエス デジタル シアター システム)

DTSは、米国のデジタル·シアター·システムズ社が開発した劇場用デジタル音声システムで、信号のチャンネル数はドルビーデジタルと同じ5.1chです。
記録する際の音声データの圧縮率がドルビーデジタルと比べて低く、再構成する際の情報量が多くなるので、より厚みのあるクリアな高音質再生が可能となっています。また、ダイナミックレンジが広く高分解能のサウンドが得られるので迫力のある効果的な音場再生が可能です。

■ MPEG-2 AAC (Advanced Audio Coding)(エムペグ エーエーシー アドバンスド オーディオ コーディング)

MPEG-2オーディオの標準方式の一つで、BSデジタル放送で採用されている音声符号化規格です。
低ビットレートでかつ高音質を確保できる点が特長で、番組内容によりマルチチャンネル設定が可能なフォーマットです。

用語索引

主な仕様

＜アンプ部＞

実用最大出力(EIAJ)	フロント		:70W+70W (6Ω)
	センター		:70W (6Ω)
	リア		:70W+70W (6Ω)
			入力感度/インピーダンス(1kHz)
音声入力(アナログ)	DBS、AUX、TV、VTR、DVD		:210mV/47kΩ
音声入力(デジタル)	同軸	デジタル1(DVD)	:0.5V(p-p)/75Ω
	光デジタル	デジタル2 (DBS)	:−21dBm〜−15dBm (660nm ± 30nm)
	リニアPCM 、ドルビーデジタル、DTSサラウンド、MPEG-2 AACに対応 (サンプリング周波数　32kHz、44.1kHz、48kHzに対応)		
音声出力(アナログ)	VTR		:210mV
	サブウーハー		
S/N比(音声)	DBS、AUX、TV、VTR、DVD		:88dB ('66 IHF、Aネットワーク)
周波数特性	DBS、AUX、TV、VTR、DVD		:20Hz〜20kHz (±1dB)
トーンコントロール	バス(BASS)		:±10dB (100Hz)
	トレブル (TREBLE)		:±10dB (10kHz)
バスブースト			:+6dB ±1dB (70Hz)
			入力感度/インピーダンス
映像入力	コンポジット映像	DBS、VTR、DVD	:1V(p-p)/75Ω、同期負
	S映像	DBS、VTR、DVD	Y :1V(p-p)/75Ω、同期負
			C :0.286V(p-p)/75Ω
			出力レベル/インピーダンス
映像出力	コンポジット映像	VTR、モニター	:1V(p-p)/75Ω、同期負
	S映像	VTR、モニター	Y :1V(p-p)/75Ω、同期負
			C :0.286V(p-p)/75Ω
S/N比 (映像)			:45dB

＜FMチューナー部＞

受信周波数	76.0MHz〜108.0MHz
S/N比	モノラル　:75dB (85dBf)
	ステレオ　:73dB (85dBf)
全高調波ひずみ率	モノラル　:0.4% (1kHz)
	ステレオ　:0.6% (1kHz)
アンテナ	75Ω、不平衡型

＜AMチューナー部＞

受信周波数	531kHz〜1,629kHz
実用感度	400μV/m
S/N比	48dB (100mV/m)
アンテナ	外部アンテナ端子(ループアンテナ)

＜共通部＞

電源	AC 100V、50Hz/60Hz共用
消費電力	電源　入(ON)時　130W
	待機(スタンバイ)時　2W
最大外形寸法	幅435mm×高さ100mm×奥行398mm
質量	7.5kg
付属品	リモコン(RM-SRXE100) 1
	単3形乾電池(リモコン動作確認用) 2
	FM簡易型アンテナ 1
	AMループアンテナ 1

・本機の仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。
・EIAJは、日本電子機械工業会規格に定められた測定方法による数値です。

ご相談や修理は

ビクター製品についてのご相談や修理のご依頼は、
お買い上げの販売店にご相談ください。

転居されたり、贈答品などでお困りの場合は、下記のご相談窓口にご相談ください。

修理などのアフターサービスに関するご相談 **ビクターサービスエンジニアリング株式会社**	お買い物相談や製品についての全般的なご相談 **お客様ご相談センター**
46 ページの「ビクターサービス窓口案内」をご覧ください。	**東京 ☎(03) 5684-9311** 〒113-0033 東京都文京区本郷三丁目14-7 ビクター本郷ビル **大阪 ☎(06) 6765-4161** 〒543-0028 大阪市天王寺区小橋町10-16 大阪ビクタービル

ビクターホームページ　http://www.jvc-victor.co.jp/

Victor　JVC
日本ビクター株式会社
パーソナル＆モビールネットワークビジネスユニット
〒371-8543　前橋市大渡町一丁目10番地の1　☎ダイヤルイン（027）254-8952

0501NHMMDWJEIN